

おおきなせなかに — 夢を^{あす}未来に羽ばたく元気なまち びより

広報だいせん

だいせん日和

2016

9月

vol.274



守り続け四百余年、
次代につなぐ獅子の舞

天下泰平を願い、先祖を供養「東長野ささら」・8月18日(中仙豊川地区)

WORK and LIFE in India

青年海外協力隊員

藤澤英幸の インドで日本語教えています③

青年海外協力隊平成26年度1次隊隊員として今年6月までインドで日本語の教育活動をしていた藤澤英幸さん(太田地域出身)から現地での仕事や生活の様子を伝えるレポートが届きました。最終回の今回は、2年間の任期を終えた藤澤さんがインドでの隊員生活を振り返ります。

大 仙市の皆さん、こんにちは。JICA青年海外協力隊としてのインドでの2年間の活動を終え、久々の故郷を満喫中の藤澤です。

インドは悠久の時の中にあるような印象をお持ちの方も多いでしょうが、私はむしろ今まさにそんな時間の中で生活しています。インドでの暮らしが遠い日の幻になる前に、急いでこの2年間の振り返りをします。

インドにびっくり体験談

- ベタですが、牛の多さと自由さ。お腹が空くと民家の玄関をノックして餌を催促することも。書いてて嘘っぽいなと思いましたが、本当。
- 牛は神聖な動物なので食べないが、水牛は神聖ではないので食べる。
- 象はかなり仕込まれているらしく、みんな芸達者。
- 蛇使いはほとんど見かけない。聖地ベナレスで一人見かけただけ。
- ヨガとは心の平安とか神との一体化とか、そういったところへ至る方法全般のこと、よく知られた柔軟のよ



滞在期間中一度だけ目にした蛇使い

うなものはそのうちの一つでしかない。これを踏まえた上で、ヨガを日常的にしている人を全然見かけない。

- 三車線に車4台は当たり前。三輪タクシー(通称オートリキシャ)が逆走することも。
- みんなケータイを持っていて。都市部には4GLTE回線が普及してる。
- なんの通知もなく「計画停電」が実施される。
- アメリカほどではないにせよ、州の自治権が強く、それぞれ特色がある。そのため国全体としての祝日は五つしかなく、そのうちのひとつがなんとクリスマス。
- 私の帰国時期が大学の学期休みとかぶっていたため、お別れパーティーが無かつた。(天泣)

日本語指導に悪戦苦闘

私の配属先は学生の数が多いことから、すでに5人の現地教師がいました。そのため私の主たる業務は彼らの日本語運用能力と教授技術の向上でした。

せっかく人数がいるので始めはみんなを集めてミーティングをしていたのですが、議論が白熱するにつれ、使用言語が日本語↓英語↓タミル語と変化してしまう上、それぞれ言いたいことを言つたら何の結論にも至らなくても会議が終わってしまうという経験が何度か繰り返しました。そこで個別に空いている時間



日本語の授業中にみんなで空手



インド人学生による日本語の演劇

に一对一で日常会話をしながら、ほんのちよつとだけ修正点を指摘するというスタイルに移行しました。なので、先生の休み時間が私にとつての活動時間だったわけですが、先生方にその認識があつたかどうかは定かではありません。方が「2年間ずつとおしやべりしてた、おしやべり好きの日本人」と思っている先生がいたらまことに遺憾なわけですが、これ以外にも教科書の編さんや学生への文化紹介授業などもしていたので一応大丈夫なはず。私の活動記録をつづつた連載も今回が最終回です。今度は某大型スーパーマーケットか、そこの農道でお会いしましょう。(終わり)

地域の直売所を紹介—採れたて!「おらほの直売所」



稲沢野菜直売所

(鈴木ミツ代表・協和)

営業期間 / 4月下旬から12月上旬の
午前7時30分～午後5時(期間中無休)

営業場所 / 協和稲沢字稲沢135-9

商品 / 野菜、山菜、切り花、きのこ、いぶり大根など



平成元年にオープンした「稲沢野菜直売所」。国道46号沿いにあるため観光客の通りも多く、お客さんが絶えない直売所で、店頭には毎日新鮮な野菜が並びます。

採れたての新鮮野菜はもちろんのこと、春は山菜、夏はブルーベリー、秋はきのこが好評です。珍しいものでは、ルバーブ。ジャムを作るためにと遠方から買いに来てくれるお客さんもいます。

70代から80代のお母さんたち7人が仲良く生き生きと運営。「おいしかったよ」「いつも元気だね」など、お客さんとの会話を楽しみにしています。珍しい野菜は食べ方を教えてくれます。優しい笑顔の会員が皆さんのお越しをお待ちしています。気軽にお立ち寄りください。



だいせん日和
読者プレゼント

大仙の逸品

素材は全て地元産。太田の味をふんだんに「かあちゃん達の手づくり」漬け物詰め合わせ

JA 秋田おばこ太田支店農産加工部会

お母さんたちの愛情いっぱいの漬け物。素材の味が生きた逸品をご賞味ください。(プレゼントには写真の4品のほか、ミズのかぶのしょうゆ漬けがセットになります)

季節の素材の味とお母さんたちの愛情が凝縮された逸品。ご飯のお供に、お酒のつまみにぜひご賞味ください。

JA 秋田おばこ太田支店農産加工部会(倉田栄子部会長)の、太田の味「かあちゃん達の手づくり」漬け物詰め合わせ(5種類)を2人にプレゼントします。
大仙市特産品開発コンクール優秀賞、秋田県種苗交換会では農林水産大臣賞の受賞歴がある同部会。会員が愛情込めて育てた素材を使い、素材の味を生かした無添加で作る安全・安心な商品を販売しています。
今回の漬け物は、シソの実のみそ漬、金糸瓜の奈良漬、真桑瓜のてっぽう漬、ミズのかぶのしょうゆ漬、福神漬の5品で、全てお母さんたちが育てた野菜を使って手作りしています。福神漬は学校給食にも使用されていて、味はもちろん、安全・安心な食材として、栄養士もお墨付きです。

問い合わせ

JA 秋田おばこ太田支店営農センター
☎ 0187-88-2201

販売先

アンテナショップ(農産物直売所)

太田町横沢堀ノ内 46

☎ 0187-88-1547

営業時間 / 午前8時30分～午後5時

応募方法

発行号、郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号と必ず広報紙の感想を記入し、プレゼント係までお送りください。当選者の発表は商品引換券(グランポールで商品と交換)の発送をもって代えさせていただきます。応募期限 / 9月30日(消印有効)

宛先

〒014-8601 だいせん日和プレゼント係

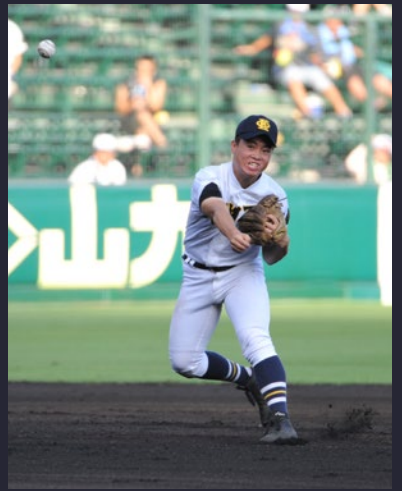
ファクス / 0187-63-1119

Eメール / kouhou@city.daisen.akita.jp

※Eメールの場合、件名は「読者プレゼント」



写真提供：秋田魁新報社



初めての夏に挑む大曲工業の取材で甲子園を訪れた。大会第4日の8月10日第4試合、相手は花咲徳栄（埼玉）。エースの高橋昂也は、横浜（神奈川）の藤平尚真、履正社（大阪）の寺島成輝とともに「BIG3」といわれる注目左腕。花咲徳栄側の一塁内野席は多くの観客が詰め寄せた。花咲徳栄優勢。カメラを構える私の周りにはそんな声や空気が流れていた。

8月7日から15日間にわたり熱戦が繰り広げられた「第98回全国高等学校野球大会」。作新学院（栃木）が北海道（南北海道）に勝利し、54年ぶりの優勝。全国3874校の頂点となり、深紅の大優勝旗を手にした。

照りつける真夏の日差し、一投一打に沸くスタンド、大きなうねりのように球場を包む大歓声。高校野球の聖地・甲子園。球場内の通路を抜けると、そこには球児の夢の舞台が広がっていた。

夢見た夏。

第98回全国高等学校野球選手権大会
大曲工業高校「夏の聖地」での軌跡





写真提供: 秋田魁新報社



写真提供: 秋田魁新報社



しかし、4回裏。空気が一変する。大曲工業この回先頭の5番・佐渡敬斗。高橋の初球をとらえた打球は、快音を残しレフトスタンドへ。プロ注目左腕から放った本塁打。一塁内野席からどよめきが起きた。2点差に追い詰めた大曲工業。その後、出塁しチャンスを生むたび、守り抜きピンチを凌ぐたび：周りのざわつきが徐々に彼らへの歓声となり声援となり、そしてそれは回を追うごとに大きさを増した。5点差で迎えた最終回。連打で食らいつくも6-1でゲームセット。三年生にとって最初で最後の夏の夢が終わった。敗れたが善戦した大曲工業。相手側の一塁内野席からも彼らに温かい拍手が贈られた。試合前、私の周りに流れていた空気はそこにはなく、全く違うものになっていた。涙を流し、悔しげにグラウンドを見つめながら去る選手たち。三塁側ベンチからグラウンド出口へと歩く彼らに割れんばかりの拍手が沸き起こった。「よくやったぞ!」「来年も来いよ!」豪腕サウスポーから10安打、連続無失点記録を破り最終回も連打。粘り強く立ち向かい、諦めない。大曲工業の真骨頂を見た。彼らのひたむきなプレーが観客の心を揺り動かしたからこそその拍手と声援に違いない。

初めて挑んだ夏の甲子園。部員全員が結束して戦い抜いた。夏の終わりは次の始まり。三年生が叶えられなかった夢の続きは、後輩たちに託された。先輩たちの涙を糧に、前を向く。

(広報担当・熊倉)

私が考える地域の「アーカイブズ」

No.3

平成29年の開館に向けて現在準備が進められている公文書館「大仙市アーカイブズ」。公文書館設置にご協力いただいている大仙市公文書館設置懇話会委員の皆さんに話を伺いながら公文書館の役割とその意義について考えます。第3回は秋田県文化財保護審議会会長も務められている富樫泰時さんです。

【問い合わせ】総務課公文書館設置準備室(仙北庁舎内) ☎0187-63-3003 内線256

ほつたあき 公文書の活用

公文書の活用はすでに行われていました。その一例を紹介しましょう。

平成28年4月28日付で大仙市文化財に指定された、仙北地域払田出身の藤井甫公が個人的に著した「拂田柵址研究日誌(昭和五年)」は、史跡の発見者である後藤宙外の動向や、上田三平(文部省宗教局保課嘱託)の発掘調査の様子を克明に記録しています。さらに作業に携わった村人の息づかい、また見学者等の驚く様子など臨場感ある筆致で記して



国指定史跡「払田柵跡」(仙北地域)

います。

「研究日誌」は1929(昭和4)年11月6日から始まり、翌年12月25日まで記されており、1930(昭和5)年4月下旬から5月に集中的に調査され、6月には、上田と文部省宗教局国宝保存会委員の荻野仲三郎博士の現地視察の状況が、10月には上田による本格的な発掘調査の状況が記されています。12月22日には内郭北門が発見され、24日には上田が再来し雪の中「箱橋で走り」、25日には平板測量して「雪の為」帰ったことが日誌から確認できます。

地元の歴史は地元の手で

仙北町史談会(佐藤隆造会長は、日誌に登場する名前だけ、あるいは屋号で記載されている地元の作業員を、克明に調査し実名を明らかにしました。この作業には、史談会員18名、協力者29人、それに9の公共機関の協力がありました。その成果は、2005(平成17)年3月に「拂田柵址関係資料集(秋田県教育委員会所蔵等)」と併せて史談会叢書第8集『拂田柵址研究日誌』として刊行されています。

公文書が語る地域の歴史

「拂田柵址関係資料集」には、公文書が68点、それに参考資料(書簡)3点が加えられています。

この資料の中に21条からなる「拂田柵址保存会会則」があります。この会は「昭和6年4月1日ヨリ之ヲ施行ス」となっており、この保存会主催の講演会が「高梨村小学校」「大曲町秋田県図書館大曲分館」「秋田市」の3カ所で計画されていたことが分かります。

しかし、この保存会その後の活躍などは不明です。この保存会がどういう経緯で設立された、その後どうなったのか、今後、この資料集の研究分析を深める必要があるように思います。

史談会叢書『拂田柵址研究



Profile

富樫泰時さん●とがしやすとき 仙北地域高梨出身で現在は秋田市在住。秋田県立図書館長、秋田県立博物館長を歴任。現在は秋田県文化財保護審議会会長、旧池田氏庭園保存整備審議会会長、払田柵址環境整備審議会委員、大仙市文化財保護審議会委員を務める。

日誌』の裏表紙に、小川千鶴(日本画家)が描いた発見当初の南門跡と真山、その奥に神宮寺嶽と思われる風景画が掲載されています。これが昭和7年当時の南門跡(現在復元の姿で、昭和30年代までの姿でもあったのです)。

公文書の活用の結果

遺跡の発見から発掘調査、そして戦争中の不幸な時代もありましたが、遺跡としては、地域の人たちからは大事にされ、公的機関には大切に扱われました。

1974(昭和49)年には秋田県払田柵址調査事務所が設置され、以後継続して発掘調査が実施されています。その成果を生かした整備も進み、案内施設も開設されて現在に至っています。



どうするの？

どうなるの？

シリーズ

これから先の「公共施設」

vol.2_施設の総延べ床面積の削減目標数値

市内の公共施設の現状や市の財政面を踏まえた上で
将来の市にふさわしい施設を残していくため、
市では、全体計画と個別計画からなる
「大仙市公共施設等総合管理計画」(案)を作成しました。
今回は、施設の総延べ床面積の削減目標数値をお伝えします。

※計画(案)の詳細は、市のホームページ (<http://www.city.daisen.akita.jp/>) に掲載しています。

【問い合わせ】総務課 ☎ 0187-63-1111 内線 208

30年間で1626億円
年間54億円もの更新費用

市では、公共施設の適正な配置を推進していくにあたって、より実効性を高めるため、施設の総延べ床面積の削減目標数値を設定し計画を進めていきます。

公共施設を更新するために今後30年間で必要な費用を、総務省提供のソフトで試算しました。その額「1626億円」。年間54億円にのびります。

また、市の過去5年間の更新費用(公共施設にかけられるお金)の平均は年間43億円ですが、30年後の人口に照らし合わせ更新費用を試算すると26億円にまで減少します。

今後30年間で必要な費用54億円を過去5年間の平均43億円と比較すると、現状で11億円、さらに30年後の更新費用26億円と比較すると28億円も不足すると推計されます。

施設の総延べ床面積
目標33%削減

試算により、経費不足を解消するには現在の約半分

52% (不足額28億円÷更新費用54億円=52%)の公共施設を減らさないと維持していくことができないということになります。しかし、現状で半分以上の公共施設を減らすことはできません。

そこで、毎年度かかる施設の管理運営費(平成26年度は約31億円)に着目。施設廃止に伴い管理運営費が削減され、その分新たなお金(財源)が生じます。そのお金を施設の更新費用に充てた場合、下図のとおり施設の総延べ床面積を33%削減(インフラは対象外)すれば、施設管理を維持できると推計しました。

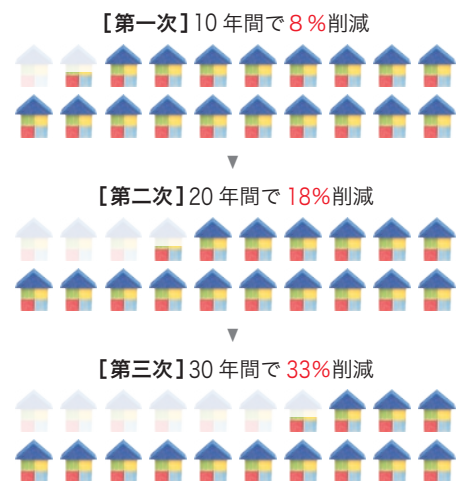
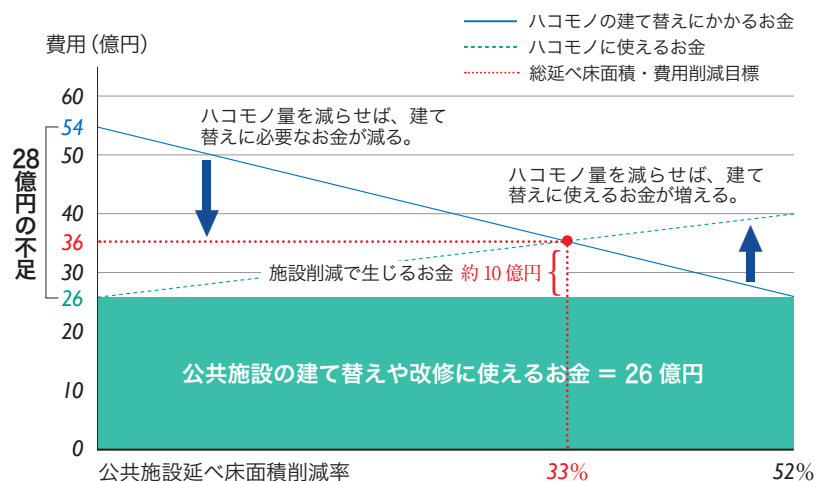
10年ごとに見直し
適正な施設配置を

30年間で10年ごと(第一次、二次、三次に分け、社会情勢や財政状況を見ながら段階的に施設総量を削減します。第一次で総量の8%、第二次で10%削減(累計18%)、第三次で15%削減(累計33%)それぞれ削減していきます。

※次回は10月号で、計画(案)の基本方針①「計画的な長寿命化対策」をお知らせします。

30年間で33%削減。浮いた財源で施設維持

施設の総延べ床面積の削減目標シミュレーション





自ら「がんばる」自治組織を支援
がんばる集落応援事業

【問い合わせ・申し込み】

まちづくり課 ☎ 0187-63-1111 内線 227
 各支所市民サービス課

以 前行われていた祭りを復活させたい。新しいイベントを開いて住民同士のつながりを深めたい。市では、集落などが自ら行う地域の振興や活性化のための活動を支援しています。採択された場合は、市が初期的経費、またはビジョン（活動計画）策定経費の一部を補助します。

事業の質問や申請にあたっての事前相談、座談会（市職員が向いて説明）を希望の際は、ご連絡ください。

◆ **平成28年度の支援内容**

◆ **対象**／単独の自治組織（集落）、またはその集落に隣接する集落で構成された団体

① **地域のまちづくり応援**

継続して行う予定の新たな取り組みの開始、または拡充のための初期的（準備）経費への補助

② **コミュニティビジネス応援**

地域の公益的な収入につながるコミュニティビジネスに関する事業の初期的（準備）経費への補助

③ **地域の計画づくり応援**

地区の広域的な振興や活性化に関する活動計画策定のための必要経費への補助

◆ **④ まちづくり応援融資**

①～③に準ずる事業への貸し付け

◆ **申込期限**／9月30日（金）



平成27年度の事業を活用して地域の夏祭りを開催した板見内三吉会（仙北・写真上）と新丁・裏町連合会（神岡）

補助・貸し付けの上限額と率

支援内容	補助上限額	補助率
①地域のまちづくり応援	70万円または120万円	9割
②コミュニティビジネス応援		
③地域の計画づくり応援	20万円	

※①・②の補助額は、申請団体の規模によります。

支援内容	貸し付け上限額	貸付率
まちづくり応援融資	250万円	10割



皆様のご意見をお待ちしています

**大仙市公共施設等総合管理計画(案)の
 パブリックコメントを実施します**

【問い合わせ】

総務課 ☎ 0187-63-1111
 内線 208

市 では、公共施設の今後の方向性を定めた「大仙市公共施設等総合管理計画」の策定作業を進めています（関連記事7ページ）。このたび計画（案）がまとまりましたので、市民の皆さんから計画（案）に対するご意見を募集します。

なお、計画（案）は市役所各庁舎と各公民館（分館は除く）に用意しているほか、市のホームページ（<http://www.city.daisen.akita>）でもご覧いただけます。

◆ **応募期間**／9月5日（月）から10月31日（月）まで

◆ **応募方法**／市役所各庁舎と各公民館（分館を除く）に設置している意見提出箱に直接提出するか、郵送、ファクス、電子メールで提出

※提出の際は、必ず氏名、住所の必要事項を記入してください。
 ※匿名や電話でのご意見は、ご遠慮ください。

◆ **意見の公表**／ご意見の概要とそれに対する市の考え方などは、応募期間終了後に市のホームページで公表する予定です（氏名その他の個人情報公表しません）。

※ご意見に対して個別に返信しませんので、ご了承ください。



皆様のご意見を踏まえたより良い計画を策定するためにも、たくさんの皆さんからのご意見をお待ちしています。
 将来の市にとってふさわしいまちづくりや公共施設のあり方を一緒に考えていきましょう。

【応募先】
 総務課
 〒0187(63)1119
 014-8601
 大仙市総務課行政改革班宛
 ☒ soumu@city.daisen.akita.jp



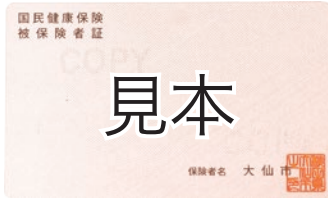
10月から保険証が新しくなります

国民健康保険被保険者証の更新

【問い合わせ】

市民課 ☎ 0187-63-1111 内線 104
各支所市民サービス課

一般被保険者証



退職被保険者証



国 民健康保険被保険者証（国保の保険証）が10月1日から新しくなります。国保に加入している方には、9月下旬に世帯主宛てに加入者全員分の保険証を郵送します。医療機関を受診するときは必ず保険証を提示してください。なお、70歳以上の方は、負担割合を表示した「国民健康保険高齢受給者証」と一緒に医療機関の窓口提示してください。※期限が切れた保険証は、ご自身で廃棄してください。

注意事項

社会保険や共済など、新たに職場の健康保険に加入した場合は、その加入日から国保の保険証を使うことができません。国保の保険証を使って医師の診療を受けた場合は、後日その医療費を返還していただきます。社会保険や共済などの保険証が届く前に診療を受けるときは、社会保険や共済などに問い合わせください。

健康保険の重複加入にご注意ください

- 職場の健康保険に加入している方およびその方の扶養になつていらっしゃる方で、国保の保険証が届いた方は、市役所で国保をやめる手続きが必要です。
- ◆**手続きに必要なもの**／
- ① 国保の保険証
 - ② 職場の健康保険の保険証（扶養している方がいる場合は、その方の保険証も必要）
 - ③ 届出人の本人確認ができるもの（運転免許証等）
 - ④ 印鑑（認め印可）
- ※マイナンバー（個人番号）の分かるものを持参してください。



いつまでも生き生きとした生活を送るために 「ロコモ予防教室」参加者募集

【問い合わせ】

下記参照



ロコモチェック

次の項目のうち、1つでも当てはまる場合には、ロコモの心配があります。

- 片足立ちで靴下が履けない
- 家の中でつまずいたり、滑ったりする
- 階段を上がるのに手すりが必要
- 家のやや重い仕事が困難（掃除機の使用、布団の上げ下ろしなど）
- 2kg程度の買い物をして持ち帰るのが困難（1%の牛乳パック2個程度）
- 15分くらい続けて歩くことができない
- 横断歩道を青信号で渡りきれない

参考：日本整形外科学会「7つのロコモチェック項目」

ロ

コモ（ロコモティブシンドローム）とは、骨や関節、筋肉などの運動器の働きが衰えることで、つまずいたり転んだりしやすく、寝たきりなどの要介護状態になる恐れがある状態をいいます。いつまでも生き生きと生活するためには、プールを活用したロコモ予防教室に参加しませんか。

◆**対象**／市に住民登録している65歳以上79歳以下の方で、左のロコモチェックに該当する方

- ◆**時間**／午前10時～11時30分
- ◆**期日**／10月11日から12月13日までの毎週火曜日（全10回）

※なるべく全10回を受講できる方
※要介護・要支援認定者、病气やけなどで運動制限のある方を除く

※初回と最終回は正午まで

◆**会場**／ペアーレ大仙

◆**定員**／20人

※初めて申し込む方を優先

◆**受講料**／無料

◆**申し込み方法**／ペアーレ大仙の窓口で説明を受け、申込書に記入（電話予約可）

◆**申込期間**／9月20日（火）から29日（木）まで

◆**講座の内容**／体力測定、プールでの筋トレ・水中運動など

◆**問い合わせ・申し込み**／ペアーレ大仙

☎ 0187(63)8600

【問い合わせ】

高年齢者あんしん相談室中央（地域包括支援センター中央）

☎ 0187(63)1111

内線169



結婚50周年を祝って 大仙市金婚式

対象となるご夫婦は、申出用紙に必要事項を記入し、押印の上、大曲地域の社会福祉課に、その他の地域のの方は、お住まいの地域の支所市民サービス課に申し出ください。

申し出された方には、後日詳細をお知らせします。

※申出用紙は社会福祉課と各支所市民サービス課に用意しているほか、市のホームページからダウンロードできます。

◆**対象**／今年度中に結婚50周年を迎えるご夫婦(昭和41年4月2日から42年4月1日までに結婚)

◆**日時**／10月26日(水)
午前10時～

◆**会場**／仙北ふれあい文化センター

◆**申出期限**／9月15日(木)

◆**問い合わせ・申し出**
社会福祉課 内線175
各支所市民サービス課

出場者募集

第18回奥羽太田 ロードレース大会

◆**日時**／10月8日(土)
午前9時20分～
午前8時受け付け開始

◆**コース**／日本陸連公認・奥羽山荘周辺特設コース
(2キロ、5キロ、10キロ)

◆**参加費**／

◆**【小・中学生】**500円
(市内の小・中学生は無料)

◆**【高校生】**1500円

◆**【一般】**2000円

◆**申込期限**／9月16日(金)

◆**問い合わせ・申し込み**
太田公民館
☎0187(88)1119



初秋の爽やかな日差しを浴びながら自然に囲まれたコースを駆け抜けてみませんか。

受講者募集

神岡総合情報センター パソコン教室



◆**対象**／市内に在住・在勤・在学の方

◆**時間**／午後2時～4時

◆**会場**／神岡総合情報センター11T研修室(神岡庁舎内)

◆**定員**／各コース12人

◆**申し込み開始**／

9月7日(水)午前10時～
※電話受け付けのみ

◆**問い合わせ・申し込み**

神岡総合情報センター
☎0187(72)4633

コース名	対象	期日	受講料
ワード基礎 (6日間)	文字入力 できる方	9月27日(火)・30日(金)、10月4日(火)・7日(金)・11日(火)・14日(金)	2,160円
エクセル基礎 (6日間)		10月18日(火)・21日(金)・25日(火)・28日(金)、11月1日(火)・4日(金)	

参加者募集

朝活でジブン磨き！ 女子力×男子力アップ講座

第1弾 パークヨガ

国指定史跡「ほったのさか 払田柵跡」で地域の魅力を感じながら、ヨガを体験してみませんか。

◆**日時**／9月10日(土)
午前8時30分～

◆**会場**／払田柵跡(長森展望休憩所付近)

※雨天時は、曲がり家「みずほの家(柵の湯隣り)

◆**定員**／20人

◆**参加費**／300円
(体に優しいマフィン付き)

◆**講師**／吉岡総子さん(ヨガシャイニングムーン)

第2弾 体幹トレーニング× 体が喜ぶ健康的な食事

朝の清々しい時間に体を動かして、さわやかな一日をスタート！トレーニング後には、オーガニック旬野菜を使った料理と食事法を紹介いたします。



払田柵跡「政庁跡」付近からの景色

◆**日時**／9月17日(土)
午前8時30分～

◆**会場**／市民活動交流拠点センター(A棟大曲2階)

◆**定員**／20人

◆**参加費**／300円
(料理の試食付き)

◆**講師**／安藤竜一さん(整体院龍観堂、木元千恵子さん(ガーデンカフェ&デリカKimoto)

◆**問い合わせ・申し込み**
男女共同参画推進室

☎0187(88)8039

大曲庁舎(本庁)
☎0187-63-1111

大曲南庁舎
☎0187-66-4905

神岡庁舎
☎0187-72-2111

西仙北庁舎
☎0187-75-1111

中仙庁舎
☎0187-56-2111

協和庁舎
☎018-892-2111

南外庁舎
☎0187-74-2111

仙北庁舎
☎0187-63-3003

太田庁舎
☎0187-88-1111

大仙市ホームページ
www.city.daisen.akita.jp

Tax Info.

9月は固定資産税3期と国民健康保険税3期、後期高齢者医療保険料3期の納付月です。

忘れずに納期内の完納をお願いします。

◆**納付期限**／
9月30日(金)

訂正とおわび

だいせん日和8月号お知らせ版に掲載した大仙市敬老会(仙北地域)の時間に誤りがありました。訂正しておわびします。

【誤】午前10時30分～ 【正】午前10時～

9月13日(火)チケット発売 民俗芸能フェスティバル

◆日時／11月6日(日)午後1時30分開演
(午後1時開場)

◆会場／仙北ふれあい文化センター

◆チケット発売／9月13日(火)

◆チケット料金／

栈敷席(自由席)、観覧席(指定席)

前売券／1,000円

当日券／1,200円

※前売で全席完売の場合、当日券は販売しません。

◆プレイガイド／仙北ふれあい文化センター、大曲市民会館、中仙市民会館(ドンパル)、協和市民センター(和ピア)ほか

◆出演／盛岡さんさ踊り(岩手県盛岡市)、花輪ばやし(鹿角市)、金津流鶴羽衣鹿踊(岩手県奥州市)、黒土神楽(中仙地域)

【問い合わせ】

仙北ふれあい

文化センター

☎0187-69-3333

毎年好評の「民俗芸能フェスティバル」。チケットは早めにお買い求めください。



結婚に向けたあなたの大切な一歩をサポート 結婚応援無料相談会



- ◆対象／結婚を望む方本人
- ◆日時／9月11日(日)午後2時～、午後2時45分～、午後3時30分～の全3回
- ◆会場／市民活動交流拠点センター(Indee大曲2階)
- ◆定員・相談時間／6人・1人40分(予約制)
- ◆相談員／佐藤あや子さん(大仙結婚を支援する会)、武藤隆男さん(同)
- 【問い合わせ・申し込み】男女共同参画推進室 ☎0187(88)8039

歴史まちなみウォーキング 二つの川港を歩く文化財めぐり

雄物川と玉川の水運により川港として発展した角間川(大曲)と長野(中仙)。浜倉や旧家の佇まいに川港の面影を感じながら、古い町並み散策に出掛けてみませんか。今年7月に国文化審議会から登録の答申が出され、今秋、正式に国登録有形文化財に登録される見通しの本郷家住宅も見学します。

- ◆日時／9月21日(水) 午前9時～午後4時
- ◆集合・解散場所／大曲市民会館第二駐車場
- ◆定員／20人
- ◆参加費／1000円(昼食代含む)
- ◆コース／角間川浜倉、川港親水公園↓黒塀通り、本郷家住宅↓角間川公民館(柴田洋子さんの作品鑑賞)↓昼食↓曹溪寺↓鈴木酒造店↓長野御役屋門↓道の駅なかせん
- ※歩きやすい靴で参加ください。
- 【問い合わせ・申し込み】文化財保護課 ☎0187(63)8972

ご理解とご協力を お願いします 市道仙北8号線「川前橋」修繕工事のため終日全面通行止め

丸子川に架かる、仙北地域の市道仙北8号線「川前橋」(戸地谷字川前地内)の修繕工事のため、次の期間、終日全面通行止めとなります。工事期間中、周辺住民の皆さんや通行する皆さんにご不便をお掛けしますが、ご理解とご協力をお願いします。

なお、迂回路として、国道13号、主要地方道大曲田沢湖線、県道千畑大曲線、市道46号線をご利用くださるようお願いいたします。

◆期間／9月12日(月)から12月15日(木)まで終日

【問い合わせ】 仙北支所農林建設課



交通量が多い川前橋。工事期間中は、通行する皆さんや周辺住民の皆さんにご不便をお掛けしますが、ご協力をお願いします。

認知症の方と 家族の集い 「たんぼの会」に 参加してみませんか



「たんぼの会」は、認知症の方を介護する家族同士が、日ごろの思いを語り合ったり、リフレッシュを図りながら、共に励まし合ったり、支え合ったりする場です。

「最近、家族の物忘れが気になる」「認知症に関する悩みがあるけれど、どこに相談したらいいのか分からない」などという方はいませんか。どうぞ、気軽にお越しください。

- ◆日時／9月14日(水) 午前10時～11時30分
- (午前9時45分受け付け開始)
- ◆会場／大曲交流センター
- ◆内容／ミニ勉強会(認知症について)、情報交換
- 【問い合わせ・申し込み】高齢者あんしん相談室(地域包括支援センター) 中央内線169 同東部 ☎0187(56)7125 同西部 ☎0187(87)3970



- 山形由美デビュー30周年 & 新CD発売記念
- 由美と聡のおしゃべりコンサート**
- 日時／12月3日(土) 午後6時開演(午後5時30分開場)
- 会場／大曲市民会館
- チケット料金／全席指定 2000円
- プレイガイド／大曲市民会館、ローソンチケット(特電0570(084)002・Lコード21848)
- ◆先行電話予約／9月6日(火)午前8時30分～
- ◆一般発売／9月10日(土)午前8時30分～(大曲市民会館)、午前10時～(ローソンチケット)
- 【問い合わせ・先行電話予約】
大曲市民会館(月曜休館)
☎0187(63)8766



- 大曲庁舎(本庁) ☎0187-63-1111
- 大曲南庁舎 ☎0187-66-4905
- 神岡庁舎 ☎0187-72-2111
- 西仙北庁舎 ☎0187-75-1111
- 中仙庁舎 ☎0187-56-2111
- 協和庁舎 ☎018-892-2111
- 南外庁舎 ☎0187-74-2111
- 仙北庁舎 ☎0187-63-3003
- 太田庁舎 ☎0187-88-1111

大仙市ホームページ
www.city.daisen.akita.jp

住宅リフォーム支援事業 住宅の改修に補助します

市では、環境対策等、克雪対策、耐震化のいずれかの目的で行う住宅改修工事に対し、補助金を交付いたします。ただし、予算額に到達次第、申請は打ち切りとなります。申請予定の方は、お早めに申請してください。詳細は問い合わせいただくか、だいせん日和4月号をご覧ください。

- ◆対象／市内に居住し、市に住民登録している方、または大仙市に移住予定の方は大仙市に移住しないこと
- ◆対象住宅／自ら居住している、または居住を予定している市内の住宅
- ※対象外の場合もありますのでご確認ください。
- 【問い合わせ・申請】
建築住宅課(大曲南庁舎内)
☎0187(66)4909
各支所農林建設課

臨時職員募集

花火資料デジタル化を行う臨時職員募集

選考は面接で行います。詳細はハローワークの求人票をご覧ください。

- ◆募集人員／2人
- ◆業務内容／花火関連資料の整理・デジタル化作業(スキヤナやデジタルカメラを使用し画像データ作成、パソコンを使用した入力作業など)
- ◆雇用期間／10月1日から平成29年3月31日まで
- ◆勤務日時／土・日、祝日を除く週4日勤務で、午前9時～午後5時
- ◆勤務地／旧大曲北幼稚園
- ◆時給／760円
- ◆応募方法／写真を貼った履歴書とハローワークの紹介状を提出(郵送可)
- ◆応募期限／9月13日(火)
- ※郵送の場合は必着
- 【問い合わせ・応募】
〒014-8601
総合政策課内線275
(所在地不変)

平成29年度農地耕作条件改善事業(定額助成)

農林水産省では、一定の要件を満たす方を対象に次の事業に対して助成します。詳細は問い合わせください。

- ◆対象事業・助成額／
【区間拡大】畦畔除去、均平作業などによる区画の拡大・10万円/10a
【暗渠排水】標準的な本暗渠の施工(間隔10m以下)・15万円/10a
- ◆申込期限／9月16日(金)

- 【問い合わせ・申し込み】
- 土地が土地改良区管理区域の場合
各土地改良区
- 土地が上記以外の場合
農林整備課 内線245
各支所農林建設課

秋の熊に注意!
今秋は熊の出没多発が予想されます

秋は、冬眠に備えた熊が食べ物を探して活発に活動します。今年も、餌となる木の実は不作が予想されているため、餌を求めて里へ下りてくる熊が多くなること予想されます。熊の出没に注意し、熊に遭わないよう、次のことに注意しましょう。

- 朝夕は山中に入らない
- 鈴や笛、ラジオなど音が出るものを携帯し、熊に自分の存在を知らせる

- 悪天候の日は注意する(雨や風の音で熊が人の気配に気がかない場合があります)
- 畑の野菜や柿、リンゴ、ブドウなどは適切に収穫し、収穫見込みのないものでも放置せず回収する
- 熊に出会ってしまったら、大声を出したり走ったり逃げたりせず、ゆっくりと立ち去る
- 【問い合わせ】
農林整備課内線244



出場者・観覧者を募集!

ゲスト



布施明



ゲスト



大月みやこ

放送
予定

11.27 日 午後0時15分～午後1時
〈総合テレビ・ラジオ第1(全国)〉〈国際放送〉

大曲市民会館

出場者/予選を通過した20組の皆さん 司会/小田切千アナウンサー

予選会 11月26日(土)

受付	開会	結果発表予定
午前11時	午前11時45分	午後5時

本選 11月27日(日)

開場	開演	終演予定
午前11時	午前11時45分	午後1時30分

出場申し込み

往復はがきでの事前申し込みが必要です。

- ◆**対象** / 中学生以上で、アマチュアの方(中学生は保護者同伴。
申し込み時に保護者の名前と電話番号を記入)
※中学生、高校生、大学生の方は、職業欄に部活動などを明記
- ◆**応募数** / 1人(組)1通
※グループの場合は、全員の名前(ふりがな)・年齢・職業を明記し、代表者が申し込み
- ◆**応募期限** / 10月13日(木)必着
※応募者多数の場合は、抽選で250組を選出し、前日の予選会に出場していただきます。
※当選者には予選会の案内を、落選者には落選通知を11月7日(月)に発送予定です。

【注意事項】 応募後の曲目・出場者の変更はできません。

往信 表面	返信 裏面	返信 表面	往信 裏面
往信 01108501 NHK秋田放送局 「のど自慢」出場係	何も記入しない ※結果を印刷します。	返信 01108501 ①郵便番号 ②住所 ③名前	①郵便番号 ②住所 ③名前(ふりがな) ④年齢 ⑤性別 ⑥職業(具体的に) ⑦電話番号 ⑧曲目・歌手名 ⑨選曲理由

観覧申し込み

入場無料ですが、往復はがきでの事前申し込みが必要です(記入不備の場合は無効)。

- 1歳以上の子どもから人数に含みます。
- ◆**応募期限** / 10月27日(木)必着
※応募者多数の場合は、抽選の上、当選者には入場整理券(1枚で2人入場可)を、落選者には落選通知を11月8日(火)に発送予定です。
- 【注意事項】** インターネット売買サイトなどでの転売を目的とした申し込みは固くお断りします。
なお、売買を目的とした申し込みであると判断した場合は、抽選対象外とします。

往信 表面	返信 裏面	返信 表面	往信 裏面
往信 01140063 大曲市大曲日の出町 2-6-50 大曲市民会館 「のど自慢」観覧係	何も記入しない ※結果を印刷します。	返信 01140063 ①郵便番号 ②住所 ③名前	①郵便番号 ②住所 ③名前 ④電話番号

※応募の際にいただいた情報は、選出・抽選結果の連絡のほか、受付料の支払いに使用させていただくことがあります。(NHK秋田放送局)

問い合わせ

NHK 秋田放送局 ☎ 018-825-8111 (平日 午前9時～午後7時)
ホームページ <http://nhk.jp/akita>

大曲市民会館 ☎ 0187-63-8766 (午前8時45分～午後5時・月曜休館)
ホームページ <http://www.city.daisen.akita.jp/>

東日本大震災を契機に 防災体制を見直し

今年は東北に未曾有の被害をもたらした東日本大震災から5年目にあたる節目の年。まだ記憶に新しいこの歴史的な大災害を教訓に、国や地方自治体は防災力の強化に努めてきました。

大仙市では東日本大震災直後の平成23年4月に災害対応の専門部署として「総合防災課」を新設。平成26年には、19年に策定した地域防災計画を消防や警察、民間事業所、医師会などの関係者で組織する防災会議での話し合いを経て大幅に見直しました。改正後の計画は、考えうる最大クラスの地震発生を想定。コミュニティFMや携帯電話への緊急速報メールなどの通信手段を用いた災害情報の伝達や、広い範囲で大規模災害が発生した場合に大仙市を後方支援の拠点とする後方支援計画などを盛り込みました。

また、関係機関や民間事業所などと災害発生時に連携・協力しあうことを目的に協定

を締結したほか、自主防災組織の組織率向上や防災士の育成、避難所開設訓練の実施を通じた防災教育の充実など、災害に強いまちづくりを注いできました。

「現実」が「想定」を超える

そうした取り組みを進めている最中に起こったのが今年4月の「熊本地震」です。

熊本県を中心とする九州地方に大きな被害をもたらした熊本地震の発生から間もなく5カ月が経過します。熊本県災害対策本部のまとめによると、この地震による死者は49人、負傷者は1717人。建物の損壊は熊本、大分などで8万棟を超えます。地割れや土砂崩れなどによる道路や橋りょうなどの社会資本の被害額は500億円強。ため池の損傷や畜舎の損壊などで農業などの産業基盤の被害は1300億円に達するなど、日常生活や経済活動への影響も深刻です。

熊本県の各自治体も地域防災計画をつくり、自然災害の発生に備えていました。にも

特集 市民の連帯で災害に打ち勝つ

だいせんの「防災力」



地震や大雨、台風、大雪…日本全国を見渡すと、近年大規模な災害の発生が続いています。自然の脅威といかに向き合い、被害を最小に抑えるためにはどうするべきか。市民一人一人の防災意識の向上と地域の連帯感の醸成が必要です。今号では、大仙市の防災力を強化するためには何が必要か考えます。



市町村合併後に発生した主な自然災害

2008(平成20)年6月	岩手宮城内陸地震 大仙市で震度5弱を観測
2009(平成21)年10月	台風18号による風害 民家の屋根が飛ばされるなどの被害
2011(平成23)年3月	東日本大震災 大仙市で震度5強を観測、県内全域で停電
2011(平成23)年6月	集中豪雨 雄物川(神岡)で最高水位7.74mを観測
2011(平成23)年	豪雪(～平成26年まで)
2012(平成24)年4月	爆弾低気圧の風害 倒木などで市内1万2千世帯が停電
2014(平成26)年8月	集中豪雨 「大曲の花火」駐車場7カ所が使用不能に
2015(平成27)年7月	集中豪雨 中仙地域の齊内川堤防が一部決壊

かわららず、地震発生直後に伝えられたのは、避難所に入りきららず車中泊で日々をしるぐ被災者の姿や、食料や水が行き渡らず混乱する避難所の様子でした。

この状況がわたしたちに改めて示したのは二つの現実です。一つは、自然災害を「想定」の枠に収める難しさ。もう一つは、支援の手が隅々まで行き届くには多かれ少なかれ時間がかかってしまうという「公助」の弱点です。

住民同士の連帯で
困難を乗り越える

それでは自然災害が発生した場合、どのように対応したらよいのでしょうか。まずは自分自身と大切な家族を守るために、個人個人が自ら考え判断し、行動して危険を回避すること。そして、個人の力だけで太刀打ちできない問題には、身近な住民と協力し合うことが困難を乗り越えるための鍵となります。



←熊本地震発生直後に建築物危険度判定士として被災地で支援活動を行った市役所建築住宅課職員。写真左から鈴木将 主席主査、三浦将博 主席主査、熊澤明悟 主査、佐藤聡 主任

「熊本地震」市民生活に大きな爪あと…建築住宅課 鈴木将 主席主査

熊本地震による被災地支援のため4月26日から28日までの3日間、被災建築物応急危険度判定を行いました。大仙市から派遣されたのは建築住宅課に所属する職員4人。全員が「被災建築物応急危険度判定士」の資格を持ち、現地では主に建物の外観調査に携わりました。この業務は余震などによる2次被害を防ぐため、建物がこのままでも住み続けられるかどうかを外観を中心に一定の基準に沿って診断するものです。また、それに伴っ

て専門の調査員が住宅地を直接見て回るため、不安を抱いている被災地の皆さんに安心していただくことも目的の一つでした。私たちが担当したのは熊本市と地震被害が最も大きいといわれた益城町の住宅地。外観上は比較的被害の少ない建物が中心でした。住民からは内部の破損が大きく生活が困難な状況だと訴える声もありましたが詳細な診断はできず、限られた時間内で十分に調査することの難しさを実感しました。

また、益城町の震源地近くでは多くの建物が倒壊し想像を絶する被害の状況を目の当たりにしました。その多くは古い建物でしたが、比較的新しい建物の倒壊も見受けられました。災害はいつどこで起こるか分からない——その怖さを痛感した3日間でした。被災された方々の一日も早い復興を願う気持ちを胸に、今回の私たちの経験を生かすことで大仙市の「災害に強いまちづくり」の一端を担うことができればと強く感じました。

命を守るために…まずは「自助」 災害発生！備えは万全？



「自助」は防災の基本である「自分の命は自分で守る」ことを指します。突発的に発生した災害を目の前にすると誰もが動揺しがちですが、日ごろの備えと冷静な対応で自分と家族を守りましょう。



準備しておきたい 緊急時の持ち出し品

- 懐中電灯(+予備電池)または口ウソク
- 携帯ラジオ(+予備電池)
- 飲料水(3日分) 非常食(3日分)
- ヘルメット・帽子
- 救急用品・常備薬(マスク、消毒液、三角巾、包帯、胃腸薬、風邪薬など)
- 衣類(下着、シャツ、タオルなど)
- 貴重品(現金、小銭、保険証や身分証・預金通帳のコピーなど)
- 生活用品(ライター、ナイフ、ティッシュ、ビニールシート、生理用品など)
- 防寒用品(毛布、カイロなど) ※特に冬季

参考/秋田県防災学習館資料



ライフラインが使えない生活に備えよう

- 1 使用不能期間がどのぐらいの日数続くのか、あらかじめ想定しておく
- 2 それらの不便に耐えるにはどのような我慢が必要なのか考えておく
- 3 不便をしのぐために代替手段を備えておく
- 4 いざというときのための費用の備えをしておく

出典/「死なない!死なせない!大地震から家族を守る!」
(世界文化社)

日 常生活でよく使う「ライフライン」という言葉。直訳すると「命綱」を意味し、わたしたちが普段生活していく上で欠かすことのできない上下水道や電気、道路、情報通信設備などの生活基盤を指します。この言葉は1971(昭和46)年に米国で発生したサンフェルナンド地震以降に地震関係者の間で用いられるようになったと言われています。

地震や台風・大雨などの自然災害が発生した場合、ライフラインが使えなくなる恐れがあります。災害は、いつ・どこで・どのような形で発生するか分かりません。そのため、いざというときにすぐに逃げ出し、当面の間ライフラインに頼らずにサバイバル生活をするためには、あらかじめ備えておくことが大切です。例えば、普段から水や食料を備蓄しておく、貴重品や身分証明書などをまとめておく、非常用持ち出し袋を準備しておくなど。災害発生直後の困難な状況を想像しながら、いかに乗り切るかを家族と話し合い、そのための備えが十分か確かめましょう。



INFORMATION

住宅の耐震診断・耐震改修の費用を補助します



熊本地震の被災住宅を調査する市職員(関連記事15頁)

住 環境の安全確保と住宅の耐震化を促進するため、耐震診断、または耐震改修にかかる費用の一部を補助します。

1995(平成7)年1月に発生した阪神淡路大震災では、亡くなった方の約9割が建物の倒壊や家具の転倒によるものだったことが明らかになっています。地震災害から命と財産を守るには、住宅の耐震化は有効な手段です。詳細は問い合わせください。

◆対象住宅／

- ①市内の住宅で、昭和56年5月31日以前に建築された木造戸建て住宅
 - ②店舗併用住宅の場合は住居部分が建物全体の半分以上
 - ③木造軸組工法、または枠組壁工法であること
- ※申請時、未契約のものに限ります。(事前相談が必要です)

◆補助金の上限額と募集戸数／

	補助金の上限額	募集戸数
耐震診断	3万円	先着5戸
耐震改修	50万円	若干数

◆申請期限／11月30日(水)

◆その他／市の住宅リフォーム支援事業と併用できます。(関連記事12ページ)

【問い合わせ・申請】

建築住宅課(大曲南庁舎内) ☎0187-66-4909

揺れたらすぐ机の下へ！
シェイクアウト訓練

大規模災害が発生したとき、とっさの行動が自らの命を助けることにつながる場合があります。東日本大震災では、立つていられないほどの強い揺れに見舞われました。このような状況下では、冷静かつ速やかに避難行動をとり、自分自身の安全確保を最優先することが大切です。

市では、市民の皆さんに大地震が発生したらとにかくすぐに、素早く動いて、自分の身を守ってもらおうと、「いつせいでんざい訓練」『シェイクアウト』を実施しています。

米国生まれの「シェイクアウト(Shake Out)」は防災訓練の形態の一つ。あらかじめ決めた日時に、ラジオや放送などを合図に参加者全員が「①DROP(ドロップ) (まず低い体勢をとり)、②COVER(カバ) (机やテーブルの下に潜り込んで頭を守り)、③HOLD ON(ホールドオン) (揺れが収まるまでその場から動かない)」の連続した安全行動を実際にやってみて確認します。とても単純で簡単な、屋内で実施しやすい訓練です。



四ツ屋小で実施したシェイクアウト訓練(1月22日)



【図】シェイクアウト訓練で確認する三つの安全行動 (出典:効果的な防災訓練と防災啓発提唱会議)

市は東日本大震災の教訓を踏まえ、このシェイクアウトを友好交流都市の神奈川県座間市の取り組みに倣って導入しました。座間市では安全行動が1・2・3の3段階になっていることよせて毎年1月23日に実施。市は座間市と連携し、平成27年から両市の合同訓練として同日実施しています。今年には市民や市内の事業所に勤務する2万2206人が参加しました。市では、いざというときに役立つこの三つの安全行動を今後も広く浸透させ、市民の防災意識と「自助力」の向上を図っていきます。

地震に限らず予期せぬ自然災害が身近で起こると多くの場合、パニックに陥り、普段の心がけ通りの行動ができない恐れがあります。阪神淡路大震災で被災した4割の方は発生直後何もできなかったと答えています。皆さんもいざというときの安全行動を再確認してみませんか。

自助で備え 共助で対応

日本列島では、さまざまな種類の自然災害が発生しています。繰り返して発生している地震と津波災害、列島に点在する活火山の噴火災害、大型の台風や低気圧による豪雨・洪水・土砂災害や強風・竜巻・高潮災害、そして秋田のような雪国では豪雪による被害も深刻な問題になっています。自然災害はまちを取り巻く自然環境や地理的条件によって被害の様相が大きく異なることが知られています。

自然災害には、自分自身は自分で守る「自助」で備えることが防災の基本となりますが、それだけでは十分とはいえません。近所の方々と問題を共有し、日ごろからみんなでこの問題について考え、対処することが大事なのです。これが住民同士が協力し、被害を防ぎ、最小限に食い止める「共助」と呼ばれるものです。

「公助」の問題点と「72時間の壁」

災害発生時には地域自治体や消防、自衛隊などからの「公助」と呼ばれる公的支援が行

われます。

しかし、「公助」が「すぐに」「全ての地域へ」届かないかもしれませぬ。特に広域災害と呼ばれる広い範囲で大規模災害が発生したときは、救助体制の整備に始まり、全体の被害状況を確認した上で、まずはそれ以上の被害の拡大を食い止めることが優先されるため、最も被害の大きい場所に人員が集中します。つまり、すべての被災地域に支援が届くまでには一定の時間が必要となります。これが「公助」が抱える問題の一つです。

人命救助では、人が水や食料を補給せずに生命を維持できるのは72時間が限界といわれています。これが災害医療の分野で「72時間の壁」とよばれるタイムリミットで、建物の倒壊で閉じ込めなどが発生した場合には、その直後から72時間以内に救助できないと生存確率がゼロに近づいてしまいます。

頼りになるのは「地域住民の力」

グラフ1は1995（平成7）年に発生した阪神淡路大震災における救助主体別の

人と人との関わりを深めて育む「共助」の力——

地域のつながりを強めよう

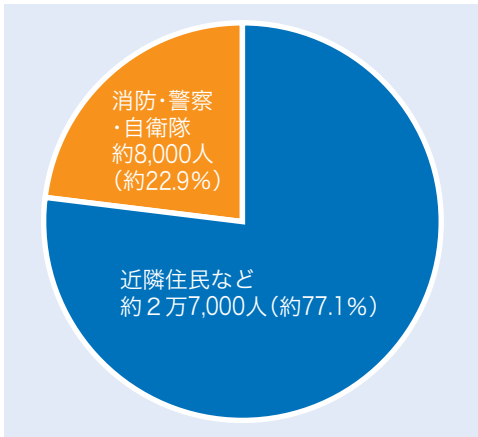
多様化・多発化する自然災害に対して、個人が万全の備えをするのは容易ではありません。人口減少と少子高齢化が進む中、今求められているのは、市民が互いに協力しながら地域ぐるみで災害に立ち向かえる社会づくりです。



【写真左】大曲地域花館地区の裏町自衛消防隊（千葉勲逸代表）が40年以上にわたって毎年実施している側溝清掃。同隊は昭和48年の豪雪災害をきっかけに翌49年に発足。側溝清掃は消防水利の確保を目的に、毎年7月に実施しており、多くの市民が参加している。
【写真右上】今年1月に南外コミュニティセンターで行われた自主防災組織育成指導者研修会。市内の自主防災組織関係者がカードゲーム形式で大規模災害時の対応方法などを学習。

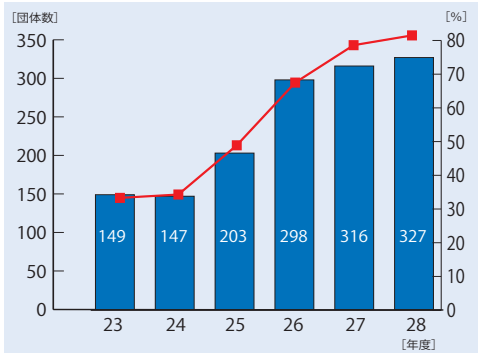


【グラフ1】阪神淡路大震災における救助の主体と救出者数



出典:「大規模地震災害による人的被害の予測」自然科学第16巻第1号

【グラフ2】大仙市における自主防災組織の数と組織率



※市総合防災課まとめ(平成28年5月末現在)

救出者数をまとめたものです。救出者数約3万5千人のうち、約77・1%にあたる2万7千人を助けたのは近隣に住む住民だったのです。災害の発生直後に最も頼りになるのは、すぐに現場に向かうことのできる地域住民の力であることが分かります。

自然災害はその地域の自然環境や地理的条件によって全く違うものになります。そして、その地域に古くから住んでいる住民は、住民にしか分からない過去に起こった災害の地理的な被害情報や時間的な被害の変化など、過去の災害が発生したときの知識などを持っています。また、地域

にどんな人が住んでいて、どこで救助を待っているかなどは、その地域の住民しか知り得ない、救助のための重要な情報です。

災害発生時に、まずその人を思い浮かべることができ、安否を確認するためにすぐに現場に駆け付けられるのは近所に住む住民以外にはいません。さらに、その地元ならではの事情や問題を住民同士が共有することで、被害の状況を正確につかむことができるようになります。

地域住民が協力して災害被害に取り組み「共助」によって自然災害に相対することが、地域の減災には重要です。

地域の防災は「自主防災組織」から

市民が自発的に関わることでできる「共助」の仕組みとして、市が組織化を後押ししてきたのが「自主防災組織」です。自主防災組織は、「自分たちのまちは自分たちで守ろう」の精神の下に地域住民が自主的な防災活動を行う組織。市では自治会単位で結成しています。組織数は平成20年度以降横ばい傾向にありましたが、東日本大震災後、防災意識の高まりとともに組織化が進んでいます。現在市内には327団体あり、自主防災組織の組織率(市内の世帯数に

占める組織化されている地域の世帯数の割合)は81・5%となっています(グラフ2)。市では組織率100%を目指し、地域に働きかけています。

大規模災害が発生し、まちな人的・物的な被害が大きいと、地域の存続が難しくなります。大地震や集中豪雨などの自然の驚異をメディアを通じて目の当たりにしているわたしたち。「防災」は住民同士が結束して考えなければいけない地域の共通課題と認識しています。住民同士が日ごろからコミュニケーションを取り合い、問題意識を共有することが災害に負けない地域づくりにつながるはず。



課題は「いざというとき機能するか」▶▶▶▶ 大花町町内会 会長 小山達夫さん (大曲)

わたしたちの町内の自主防災委員会は今年設立10周年を迎えました。気がかりなのは、この会がいざというとき機能するか、ということ。こうした地域の活動は、若者にも、また年配の方にも「年寄りややるもんだ」という意識があると、思います。わたしたちにも若い方に積極的に参加を呼びかけてこなかったことへの反省があります。

設立当初から会の運営を引っ張っていた町内の皆さんも高齢化し、助けてもらう側になりつつあります。将来のために、現役で活躍されている若い方にもぜひ活動に参加してほしいです。有事の際は、まず自分と家族を助け、その余力を地域のために使っていただければそれで十分。隣近所仲良く、何かあったら連絡をとり合える体制をつくりたいです。

写真は大花町町内会(右)と町自主防災委員会委員長の山信田齊さん



地域防災の要を担う 大仙市消防団の現在

火災や自然災害から地域住民の生命と財産を守るため奮闘している消防団。過疎化や少子高齢化などの影響を受け、組織体制の維持が大きな課題になっています。地域防災の要を担う消防団の役割を改めて考えてみましょう。

消

防団は「自らの地域は自らの力で守る」という郷土愛護精神に基づき、普段はさまざまな仕事に就いている地域住民が、災害発生時に非常勤特別職の地方公務員として災害に対応する組織です。

消防本部・消防署に勤める消防職員との違いは、消防職員が専門の職業であるのに対し、消防団員は各自の仕事に就きながら、災害時の消防・防災活動や平時の訓練などに従事します。東日本大震災をはじめ、昨今の記録的集中豪雨や台風災害などでも住民の避難誘導や救助活動などに献身的に従事しており、その活動は高く評価されるとともに、地域防災の要と位置づけられています。

組織再編で団員減少に対応

消防団は全ての市町村に設置されています。平成27年度消防白書によると、平成27年4月1日現在で全国の消防団の数は2208団、消防団員数は85万9995人です。

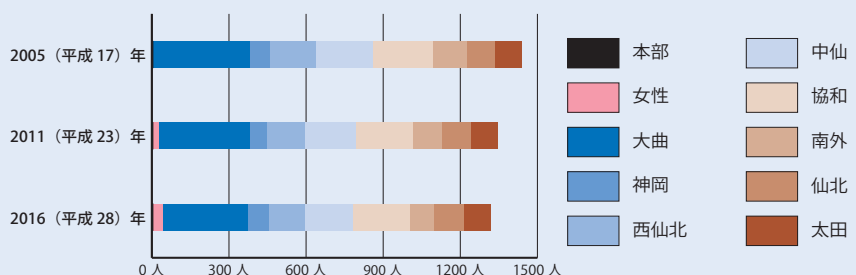
将来にわたって地域に必要な不可欠な消防団員は全国的にみると近年減少の一途をたどっており、過去10年間で約5万人も減少しました。この

原因には、過疎化や少子高齢化の進行、産業・就業構造の変化などが挙げられます。

大仙市の場合、消防団員数は平成28年4月1日現在で1286人。市町村合併直後の平成17年の1440人に比べ、約154人減少しました（グラフ3）。市では2010（平成22）年から消防団活動への女性の参画を呼びかけるとともに、2014（平成26）年には「大仙市消防団員の定員、任免、服務等に関する条例」を改正し、消防団員の定年を65歳から70歳に引き上げるなどして消防団を底上げし、より多くの市民の皆さんが消防団活動に参加できる環境づくりを進めてきました。

今年4月には組織機構の再編を実施。市町村合併時、合計8支団45分団32部81班で支団ごとに異なった組織体制を、今回の見直しで全支団統一し8支団34分団65部118班とし、神岡・西仙北・協和の3支団で分団を整理・統合するなど、地域の人口規模や地域固有の事情を勘案しながら、現状の消防団員の数で火災や自然災害などにしっかりと対応できる体制を整えました。

【グラフ3】大仙市消防団団員数の推移（3カ年抽出）



※ 基準日は各年4月1日
 ※ 2005年は市町村合併年、2011年は東日本大震災が発生し、女性消防団員が加入した年



亀屋 太郎利勝さん (中仙支団所属・52歳)

TAROHTOSHIKATSU KAMEYA

地元のことを詳しく把握しているわたしたちが率先して行動することこそ消防団員としての使命だと思います。情報集めも消防団の大きな役割。それには地域の皆さんの協力が欠かせません。消防団活動を通じて地域に貢献できることに大きなやりがいを感じています。



伊藤 隆裕さん (協和支団所属・36歳)

TAKAHIRO ITO

消防訓練大会は大人になってから打ち込める熱い戦い。学生時代の部活動を思い出します。大会に向けた練習は実際の災害現場での活動につながる経験にもなります。「男らしい」のが消防団員の魅力。消防人として地域の皆さんに信頼してもらえるように頑張りたいです。

消防団を地域で支えよう

大規模な災害が発生した場合、消防団の役割はとても重要です。災害の範囲が広く、被害が大きくなると、市や警察、消防などの「公助」が細部まで行き届くのに時間がかかります。住民同士のつながりを軸に、地域に密着した活動を行っている消防団は、どこにどんな人が住んでいるか、地域内の危険箇所はどこかなど、地域事情を把握しています。そして何よりも、常日ごろの訓練と災害現場での活動経験を通じて組織的に災害対応できる技術を身に付けています。有事の際に最も素早く地域の実情に即した活動を展開できるのが消防団の強みです。

市消防団の団員の平均年齢は47・8歳。全国平均の40・2歳を大幅に上回っています。消防団員の減少と高齢化は、地域の防災力を維持していくための課題の一つです。ボランティアに近い存在でありながらいざというときには先頭に立って地域を守る消防団員の皆さん。その活動を支えるには、市民の皆さんの理解と協力が必要です。

▶ VOICE... 頼りにしています…頑張れ、大仙市消防団！



いとう せいいち
伊藤 誠一さん
(南外・消防団OB)

有事には地域が一体となって対応しなければなりません。普段からコミュニケーションを大事にしながら頑張ってもらいたい。



たかはし みき
高橋 実希さん
(太田)

地域の活性化は地域の安全があってできるもの。地域とつながり、地域のために行動する消防団の皆さんには頭が下がります。



はら なお
原 奈央さん
(仙北)

地域に消防団員の皆さんがいてくれるだけで安心感があります。若い世代も消防団の役割を知ることが大切だと思います。



おおた しょうえい
太田 聖映さん
(西仙北)

いつもはそうでもないけれど、消防団活動しているときのお父さんはかっこよくて頼もしいです。これから頑張ってください！

7

月3日、神岡地域の平和中学校体育館。投光器に照らし出されたフロアでは、生徒たちがダンボールを使って仮居住スペースを作ったり、建物脇にテントを張って大釜や大鍋でカレーライスを作ったりして集まってくる住民への対応の準備を進めています。ほかにも掲示板や案内表示を製作する広報班、仮設トイレの設置やゴミ箱の製作・管理を行う衛生班など、約110人の生徒が作業別に七つのグループに分かれ、手際よく作業をこなしています。同校が東日本大震災の翌年にあたる2013（平成25）年以降毎年実施している避難所開設・運営訓練の一場面です。

中学生が避難所運営に取り組む

西仙北地域を震源とする直下型の強い地震が発生、大仙市では震度6を記録し、神岡地域の家屋150世帯が全半壊した。訓練は、住居の倒壊で住む場所を失った周辺住民の支援を目的に、同校が行政の要



だいせん防災教育「生き抜く力育成」事業

ふるさととは自分たちが守る

有事の際には普段お世話になっている地域住民の皆さんのために役に立ちたい。学校を避難所とし、そこで学ぶ子どもたちが避難所運営に積極的に関わっていく。そんな学習活動が市内の中学校で行われています。



困難を乗り越える心構えをつくる

市は東日本大震災以降、今後起こりうる大規模な自然災害から市民を守り、人的・物的被害を最小限に抑えるためのさまざまな施策に取り組んでいます。その一つが、防災教育の充実を図る「だいせん防災教育」『生き抜く力』育成事業です。

この事業には二つの狙いがあります。一つは子どもたちが自ら危険を予測し、回避する能力を高めること。もう一つは安全で安心な社会づくりに貢献しようとする子どもたちの意識を高めることです。事業の推進を防災に対する向き合い方を考えるきっかけづくりにつなげていきます。

避難所設置・運営訓練はその一環。市教育委員会がモデル校を選定し毎年実施しています。また、市総合防災訓練の開催地域の中学校でも行っているほか、独自に計画を立てて実施している中学校もあります。

市内の小・中学校は全て耐震補強が施されています。



VOICE... 「万が一」に備え…わたしたちはこうしたい



やすだ なお
安田 菜桜さん
(平和中3年)

平日の日中は多くの大人が働きに出ています。中学生のわたしたちが率先して動いて、自分たちの地域を守りたいです。



こにし ゆうたろう
小西 佑太郎さん
(大曲中3年)

災害時は譲り合い、助け合う心が必要。日ごろのあいさつで関わり合いの輪を広げ、地域の皆さんとの結びつきを強くしたいです。



うさみ へるか
宇佐美 永愛さん
(大曲西中3年)

わたしたち生徒が防災について理解を深め、考える機会を主体的に企画できるように取り組んでいきたいです。

請を受け避難所を設置することとし、安全確保のために学校に留まった生徒たちがその開設と運営に協力する、というシナリオで進められました。訓練で想定した地震のモデルは、1914（大正3）年に発生した秋田仙北地震（強首都震）。死者94人、家屋の全壊640戸を記録するなど、かつてこの地域に大きな被害をもたらした歴史に残る自然災害です。

有事の際は、地震の影響で電気や水などのライフラインが使えない中で避難者を迎え入れる状況に備えなければいけません。生徒たちは、避難所運営に関わる一員として、不意に訪れた「非常」を組織的に乗り切ったための演習に取り組みました。



[写真の説明] 1_体育館内に仮居住スペースの設置のためにダンボールを材料に柱や壁をつくる施設・安全班の生徒たち 2_避難所にやってきた避難者役の地域住民に健康状態を確認する救護班の生徒たち 3_雨よけのテントの下で食事の支度をする給食班の生徒たち 4_完成した仮居住スペース（1～4 平和中学校避難所設置・運営訓練、7月3日） 5・6_ケガをした高齢者や外国人などさまざまな立場の避難者を受け入れる大曲中学校の生徒たち 7_自衛隊ヘリで運ばれた救援物資を運ぶ大曲西中学校の生徒たち（5～7大仙市総合防災訓練、5月24日） 8_小学校でも独自に防災学習を取り入れる動き（防災出前講座・神岡小学校、平成27年7月7日）

す。そのため、有事の際には大勢の市民を安全に収容する避難所として活用できます。訓練では大地震などが発生したときの初動対応として、学校にいる生徒たちが避難所を開設して避難者を受け入れし、行政や自治組織などの大人の手に運営を引き継ぐまでの流れを確認します。生徒たちは訓練を通して特殊な状況で生きていくためにそれぞれの役割を整理した上で、仲間や地域住民と協力し合うことの大切さを学びます。

訓練は地域ぐるみで行われており、生徒たちも含め幅広い年齢の住民が参加しています。市では、子どもたちから家庭や地域へと防災意識を広げていくことを目指しています。



特殊車両上で後方支援の調整会議を実施



被災者受け入れ訓練には県沿岸部の住民が参加

後方支援計画に基づく防災訓練を実施 「広助」の視点で被災地を支援

5月24日に行われた大仙市総合防災訓練で市が初めて実施した「後方支援訓練」。大仙市の周辺自治体が自然災害で深刻な被害を受けたときにどうするべきか——平成26年に見直した地域防災計画を基に企画されたこの訓練は、市が果たすべき役割を明確にする新たな試みです。

「遠野モデル」を手本に

2011（平成23）年3月に

発生した東日本大震災では、岩手県沿岸部が地震直後の津波で壊滅的なダメージを受けました。このとき、被災地を支援する活動で大きな役割を果たしたのが岩手県遠野市です。古くは沿岸部と内陸部を結ぶ宿場町として栄え、また民俗学者・柳田國男の「遠野物語」などがきっかけで民話の里としても知られています。

同市は、内陸部に位置しているため地震が発生したとしても津波の影響を受けづらい地理的特性を生かし、津波を伴う巨大地震が発生した際には被災が予想される沿岸部の自治体を率先して支援する「地震・津波被害における後方支援拠点施設整備構想」を平成19年度に立てました。この構想は東日本大震災発生時に効果を発揮。遠野市は広域支援部隊のベースキャンプとしての役割を担い、全国から届く支援物資の集積・分配のほか、被災地からの患者の受け入れと被災地への医療スタッフの派遣、ボランティアへの宿泊場所の提供と被災地ま

PERSON



郡山 茂樹 防災危機管理監
(大仙市総合防災課)

秋田には「ありがとう」に対する返事として「気にしないで」という方言があります。後方支援の底辺には、さまざまなものをおおらかにシェアしていく「なんもだす！」精神が大切だと思います。

での輸送など、さまざまな分野の支援活動の拠点となりました。この遠野市を中心に自治体が広域連携で助け合う取り組みは「遠野モデル」と呼ばれ、高く評価されました。

市では、2014（平成26）年に地域防災計画を見直すにあたって、遠野市の事例を参考にしながら後方支援計画を盛り込みました。同計画は、大規模な自然災害で周辺自治体が行政機能を大きく損なった場合、大仙市が地域の枠組みを超えた被災地支援ができるように準備するものです。

県沿岸部の住民も参加

今回実施した総合防災訓練では、秋田沖を震源とするマグニチュード8を超える大地震の発生を想定。大仙市総合

公園で行われた後方支援訓練には、市や消防、自衛隊などの関係機関や地域住民、民間企業などのほか、由利本荘市やにかほ市の住民約40人も参加しました。訓練では後方支援活動の拠点となる支援本部の設置から始まり、後方支援施設の開設や県沿岸部からの被災者の受け入れ、救援物資の輸送などを訓練。参加者は有事の際のそれぞれの役割や動きを確認しました。

後方支援活動中は、被災者やボランティアの受け入れなどの場面で人と人の交流が活発になるため、市民の皆さんの協力なしでは成り立ちません。市では、今後も訓練の実施を通じて市民の皆さんにまち同士で助け合うことの大切さを広めていきます。



8月に開催された今年

の成人式。式典の冒頭で新成人を代表してあいさつを述べた成人式実行委員会委員長の畑本史也さん(天曲)は、その中で、日本の将来に関わる課題として少子高齢化などとともに災害対策を挙げました。東日本大震災の傷が癒えないうちに今度は熊本地震が発生。住民の危機感・不安感が日々募るばかりではないだろうか—と。

今回の特集では、市が防

災力の向上のために実施している事業を紹介したほか、自主防災組織や消防団などの市民の皆さんの参加や協力で支えられている防災活動を話題として取り上げました。自然災害の脅威を昨今メディアを通じて目の当たりにしたわたしたちは、普段何気なく過ごしている毎日がかけがえのない尊いものであることを知っています。自然災害は予知できるようにも、それそのものを抑えることはできません。今わたしたちができるのは、いつやってくるかわからない自然災害に

取材を終えて...「助け合い」「支え合い」がわたしたちの地域を強くする

対して、できるだけ備えておくことです。「万が一」に遭遇してしまった場合、その難局を乗り切り、当たり前の日常を再び取り戻すまでには、個人の力を寄せ合い、大きな力にして地域全体で困難に立ち向かわなければならぬ場面もあるでしょう。だからこそ普段から地域で助け合い、支え合える雰囲気をつくり、地域のつながりを強めたい。地域の結束力・団結力を高めることは、地域の防災力の向上に直接結びつきます。

新 成人の畑本さんはあ

いさつをこう続けています。「ここに集った仲間とともに、先人の知恵を生かし、時に先輩に教えを請い、例え他人だったとしても互いに手を取り合い、助け合っていけば道は切り開かれるものと信じてたい。防災の話題になるとキーワードとしてしばしば登場する「共助」は、まちづくりにも欠かせません。市民みんなが知恵と力を結集させて課題解決に取り組むことがよりよいまちづくりにつながる道となるでしょう。(了)





情緒残るまちに伝わる盆踊り

角間川盆踊り

角間川盆踊りが8月16日、大曲地域の角間川町本通りで行われ、角間川小学校と大曲南中学校の児童・生徒や地区の住民など約500人が参加しました。

笛と太鼓のおはやしに合わせて、編み笠・浴衣姿の踊り手が優雅に舞う同盆踊り。始まりは江戸時代にさかのぼると言われ、昭和42年に旧大曲市の無形民俗文化財に指定されました。角間川盆踊り保存会では、盆踊りを後世に伝えていこうと角間川保育園と角間川小学校、大曲南中学校を訪れ、子どもたちに踊りやおはやしを教える取り組みを続けています。

盆踊りが行われる会場は、角間川の御三家と称される本郷家・北島家・荒川家の旧地主の邸宅などが並ぶ通りで、現在も往時の面影を残す黒板塀が残ります。市では、旧地主の土地などを計画的に取得し角間川地区の歴史を後世に伝える交流拠点と地域活性化へとつながる文化的エリアへの整備を計画しています。

- 1 2 盆踊り保存会の方から踊りやおはやしを教わる大曲南中学校の生徒
- 3 角間川保育園の園児に盆踊りの楽しさを伝える盆踊り保存会の会員
- 4 黒板塀の前で踊る編み笠・浴衣姿の参加者

結成10年の歩みを振り返る

中学生サミット

第15回大仙市中学生サミットが8月19日、大曲中学校で行われました。

「中学生サミット」は、大仙市誕生を機に市内の中学校の連携を深め、一体感をもって活動することを目指して平成19年に始まりました。誕生から10年の節目の年の開催となった今回は、前半でこれまでのサミットの活動を写真などで振り返りました。また、後半では「大仙市の未来は私たちがつくる」のテーマの下、6つの分野に分かれて住みよいまちづくりに関して話し合い、地域活性化のために自分たちができる活動に取り組むことを確認しました。



「大仙市の未来は私たちがつくる」のテーマの下、意見を出し合う小・中学生

夏の暑さにも負けない熱戦を繰り広げた選手たち



秋銀クラブが2年ぶり5度目の優勝

第25回魁星旗争奪全県550歳野球大会

第25回魁星旗争奪全県550歳野球大会が7月23日から25日までの3日間、南外山村運動広場を主会場に行われ、前年度の全県500歳野球大会の成績上位チームから選抜された24チームが頂点を目指して戦いました。

出場選手の合計が550歳以上であることを条件に行われる大会。市内からは大曲クラブ、神岡大浦クラブ、神宮寺嶽クラブ、檜岡クラブ、オール稲沢の5チームが出場しました。

決勝戦は、秋銀クラブ(秋田市)が若美OB会(男鹿市)を4対2で下し、2年ぶり5度目の優勝に輝きました。



魅力あるまちづくりと移住・定住を考える

大仙市移住・定住市民フォーラム.....

大仙市移住・定住市民フォーラムが8月21日、グランドパレス川端で行われ172人が参加しました。

人口減少による課題を解決するため「大仙市まち・ひと・しごと創生総合戦略」で「魅力あるまちづくりと移住・定住の促進」を基本目標に掲げる市が、移住者を呼び込むことでもたらされる効果や、そのために取り組むべきことなどを県内で活躍する移住者に学ぼうと開催したものです。フォーラムでは、東京都から五城目町に移住した丑田俊輔さん、同じく横手市に移住した和賀郷さんによる講演のほか、千葉県から大仙市に移住した表田仁美さんも加わった3人によるトークセッションが行われました。



自身の経験などをもとに意見が交わされたトークセッション(左から和賀さん、丑田さん、表田さん)

一心に佐々木選手の走りを見つめる応援団



ふるさとかからリオへエール

佐々木悟選手応援パブリックビューイング.....

リオデジャネイロ五輪・男子マラソン出場の佐々木悟選手を応援するパブリックビューイングが8月21日、大曲市民会館・小ホールで行われました。

同イベントは、南外地域の住民有志でつくる佐々木悟選手を応援する会(伊藤辰郎会長)と市が開催したもので佐々木選手の両親や南外中学校の生徒など市民280人が参加。同中学校の生徒らが応援の音頭をとり、参加者全員で佐々木選手にエールを送りました。(佐々木悟選手、カヌースラローム男子カナディアンペアに出場した佐々木将汰選手・佐々木翼選手のリオデジャネイロオリンピックでの活躍はだいせん日和10月号に掲載予定)

だいせん彩る夏まつり

各地の夏まつり開催.....

8月の中旬から下旬にかけ、市内各地で夏まつりが開催されました。

8月15日、仙北地域の払田柵跡内特設会場で彩夏せんぼく2016が、西仙北地域の雄物川河川敷では第32回ふるさと西仙まつりが開催されました。午後からあいにくの雨模様となり、彩夏せんぼく2016では平安行列などのイベントが中止になりましたが、夜には雨も小降りになり両会場で色鮮やかな花火が打ち上がり訪れた多くの観客を楽しませました。翌日16日には中仙庁舎隣のドンパン広場で第32回ドンパン祭りが開催され、ステージ出演者と観客が一緒になって大きな輪をつくりドンパン踊りを楽しみました。また、21日には、大曲地域の花火通り商店街で夏まつり大曲2016が開催。水かけみこしや踊りの広場、屋台などのイベントが行われ多くの家族連れでにぎわいました。

イベント会場は、どこも雨や暑さに負けないパワーと熱気に満ち、花火や踊りなどイベントを楽しむ人たちの笑顔であふれていました。

1 第32回ふるさと西仙まつり(8月15日) 2 3 彩夏せんぼく2016(8月15日) 4 第32回ドンパン祭り(8月16日) 5 6 夏まつり大曲2016(8月21日)





古代の暮らしを体験してみよう

弘田柵跡古代体験フェス2016

弘田柵跡古代体験フェス2016が8月3日、弘田柵跡史跡公園で行われました。

夏休みの機会に、ふるさとと歴史に親しんでもらおうと市が開催したもので、小学生や保護者など約80人が参加しました。同フェスでは、木簡はがきや勾玉づくり、火おこし体験、平安衣装の着用、乗馬、矢を壺に投げ入れる古代の遊び「投壺」などが体験でき、参加した子どもたちは順番に回りながら一つ一つに挑戦。初めての体験を楽しみながら古代の人たちの暮らしに想像を膨らませました。



コツをつかみ上手に火をおこす小学生

活発な意見交換が行われたパネルディスカッション



共助で進める雪対策

第1回大仙市雪シンポジウム

第1回大仙市雪シンポジウムが7月22日、大曲市民会館・小ホールで行われました。

少子高齢化などにより行政だけで雪対策を行うことが困難になってきた中、雪に負けないまちづくりに関して市民とともに考えを深め共有しようと市が開催したもの。シンポジウムでは、山形県朝日町政策推進課長の渡辺政一さんが「朝日町における民家等の雪対策事業～地域で支える雪対策～」と題して同町での取り組みを紹介したほか、「共助による雪対策を推進するために」をテーマにパネルディスカッションが行われ参加した約400人が熱心に聞き入りました。

新成人の門出を祝う

大仙市成人式

平成28年度大仙市成人式(畑本史也実行委員長)が8月15日、大曲市民会館で開かれました。

今年の成人式の対象は、大仙市在住、または出身で平成7年4月2日から平成8年4月1日までに生まれた方。869人(男性454人、女性415人)の対象者のうち672人が出席し、久々に再会した友人らと人生の節目を祝いました。

式典では早稲田大学応援部によるパフォーマンスが行われ新成人にエールが送られたほか、新成人を代表して佐藤怜さん(太田中出身)と俵谷千優さん(西仙北東中出身)が誓いの言葉を述べました。



1 実行委員長の畑本さん 2 誓いの言葉を述べた佐藤さん(写真左)と俵谷さん

音響室でマイクや音楽の音量調節に挑戦する小学生



舞台裏を探検してみよう

大曲市民会館バックステージツアー

大曲市民会館のバックステージツアーが8月18日、同館で行われました。

同イベントは、地域行事への参加や企業・施設での見学を通してふるさと大仙市への愛着を深めてもらおうと市教育委員会が行っている「大仙ふるさと博士育成事業」の一環として小学生を対象に実施されたもの。参加した小学生は、普段は立ち入ることができない会館の天井裏にある施設や屋上など見学したほか、音響室と照明室では実際に機器を操作し、舞台裏の仕事を経験しました。

地域情報

太田 太田やきもの講座

- 期日 / 9月12日(月)・14日(水)、10月14日(金)・25日(火)
- 時間 / 午後7時～9時
- 会場 / 太田文化プラザ
- 参加費 / 1,000円
- 申込期限 / 9月6日(火)
- 【問い合わせ・申し込み】
太田公民館 ☎0187-88-1119

太田 太田地域文化講演会

- 日時 / 9月13日(火)午後2時～
- 会場 / 太田文化プラザ
- 内容 / 大仙市公文書館設置懇話会委員の茶谷十六さんによる「大仙市アーカイブズの夢～ふるさと太田の歴史を通して～」と題した講演
- 【問い合わせ】
太田支所地域活性化推進室
☎0187-88-1112

神岡 神岡おもしろ講座 野外研修

- 湯沢市高松地区センター化石資料室などを訪れます。
- 日時 / 9月12日(月)
午前9時～午後4時
 - 参加費 / 2,000円
 - 【問い合わせ・申し込み】
神岡中央公民館 ☎0187-72-2501

協和 長者森登山

- 協和地域にある長者森で登山と自然観察を楽しみませんか。
- 期日 / 9月11日(日)
 - 集合時間 / 午前9時
 - 集合場所 / 落合林業センター
(協和稲沢字落合)
 - 持参するもの / 昼食、雨具
 - 【問い合わせ】
佐川さん ☎090-2792-8494

協和 民謡・舞踊・芸能発表大会 びんだれ山のど自慢大会

- 日時 / 9月24日(土) 午前9時開演(午前8時30分開場)
- 会場 / 協和市民センター(和ピア)
- チケット料金 / 前売り1,600円
(当日1,700円)
- 【問い合わせ・チケット販売】
佐藤さん ☎018-892-3089
※チケットは協和市民センター(和ピア)でも販売します。

西仙北 清風会 書・刻字展

- 西仙北地域で活動する田口清風さんの作品をご覧ください。
- 期間 / 9月2日(金)から5日(月)まで
 - 時間 / 午前9時～午後4時(2日は午後1時～、5日は正午まで)
 - 会場 / 大曲交流センター
 - 入場料 / 無料
 - 【問い合わせ】
田口さん ☎0187-75-0335

大曲 はなだて広場に 遊びにおいて

- 対象 / 市内の未就園児とその家族
- 日時 / 9月6日(火)
午前10時～11時30分
- 会場 / 花館公民館
- 【問い合わせ】
佐藤さん ☎0187-63-2013

大曲 地域生活応援セミナー

- 日時 / 9月11日(日) 午後1時～2時
- 会場 / 介護老人保健施設なごみのさと(大曲船場町1-1-4)
- 参加費 / 無料
- 申込期限 / 9月5日(月)
- テーマ / 「ヘルスエクササイズ～健康と運動～」
- 【問い合わせ・申し込み】
介護老人保健施設なごみのさと
☎0187-86-0511

大曲 第13回 「いのち・愛」の朗読会

- 期日 / 9月22日(木・祝) 午後1時30分開演(午後1時開場)
- 会場 / 大曲市民会館・小ホール
- 入場料 / 無料
- 【問い合わせ】
大曲朗読の会 武田さん
☎0187-62-0172

大曲 手作り雑貨マーケット

- 布雑貨や洋服などの手作り品を販売しますのでぜひお越しください。
- 日時 / 9月22日(木・祝)
午前10時～午後3時
 - 会場 / 大曲交流センター
 - 【問い合わせ】
小松さん ☎090-7666-6001

～仲秋の夜、嶽山を背景に夜空を彩る光と音の祭典～

第37回 神岡南外花火大会

- ◆ 日時 / 9月14日(水)
午後6時30分～
- ◆ 会場 / 中川原コミュニティ公園
- 【問い合わせ】
神岡南外花火大会実行委員会
事務局(大仙市商工会神岡支所内)
☎0187-72-4028



約7000発の
花火が打ち上がる

おおきなせなかに お便り広場

8月号・8月号お知らせ版へのお便り

今回寄せられたのは **11** 通

内訳／ 感想 11



大

曲工業高校野球部の皆さま。夢が叶ったその瞬間、両親や監督、コーチの支え、そして何よりもチームの団結力を忘れることなく。手にしたものは社会に出ても大きな励みになることでしよう。若い力で大仙市の未来を頼みますね。

西仙北 70代女性

公

共施設、俗にいう「ハコモノ」のことですが、秋田県内の各市町村も同じ悩みを抱えています。老朽化に伴う改築問題や存続の意義の有無など、いろいろあります。

たしかに、固定費などを考えると複合施設にすれば良いですが、ますます地域間のバランスが崩れてきます。でもどこかで思い切った線引きをして決断しないといけないのではと思います。

大曲 50代男性

今

年の夏はオリンピックに甲子園にと、大仙市民がスポーツで大活躍ですね。一つでも良い結果を折りつつも、悔いのない戦いをしてほしいですね。

大曲 50代女性

弘

田柵跡で行われた「古代体験フェス」に、小学生の息子たちと参加しました。勾玉作りや火おこし体験など初めてのことばかりで、普段は飽きやすい長男も黙々と取り組み、あつという間の2時間でした。

私は秋田に嫁いで十年目にして初めて弘田柵跡に足を踏み入れました。「ほたるの会」の方の丁寧な説明に感動しました。

近くにいととなかなか行くきっかけがなかったですが、親子共に大満足のイベントでした。インターンシップの高校生も丁寧な対応で気持ち良かったです。また来年も期待しています。

太田 30代女性

大

曲工業高校の大逆転で得た甲子園の切符。表紙、記事、コラムとも最高でした。願わくば、この粘りを甲子園でも。

また、大仙市出身の3選手のリオ・オリンピックでの大活躍に、市民こぞつてエールを送りましょう。

第90回の節目を迎える、大仙市が全国に誇る「大曲の花火」。8月27日は晴天に恵まれ、大盛況であるよう心から願っています。

西仙北 80代男性

大

曲の花火が待ち遠しい時期。学生のときは「花火Ⅱ夏休みの終わり」のようで寂しく感じたものです。今では、花火師さんがこの大会に懸ける思いを感じながら、新作花火を楽しむにしています。県外の知り合いには、大曲に生まれたことをうらやましがられます。そのたびに誇らしく思います。

大曲 30代女性

よ

く行く大曲直売所「菜果真」が紹介されていてびっくり。週2、3回は行きます。

こんな大仙市のことが詳しく載っている冊子があるので、子育てイベント情報も役に立ちます。「健康の達人」のコーナーも興味を持って読んでいます。

大曲 60代女性

大

曲工業高校が夏の甲子園県代表となり、大感激でした。県南の雄として毎年候補の一翼でしたので、悲願達成ですね。おめでとうございます。裏側で支えてくれる友との絆を大切にしながら、郷土に夢を見させてください。汗が花になりましたね。

大曲 70代男性

数

年前、花館小の鹿島舟のレード中の道へ知らずに車が入ってしまったことがありました。力作の鹿島舟を横目に、いたたまれない気持ちで通り抜けたことを思い出し、掲載写真から掛け声と歓声が聞こえてくるようでした。

中仙 60代女性

ほかにもお便りをいただきましたが紙面の都合で全てのお便りを掲載できませんでした。ご了承ください。

お便りお待ちしております

「お便り広場」は皆さんのページです。市政に対する質問・意見など、皆さんの遠慮のない声をお聞かせください。

宛先はこちら
〒014-8601

だいせん日和「お便り広場」係

住所、氏名、年齢を明記の上、手紙・はがき、ファクス(0187-63-1119)またはEメール(kouhou@city.daisen.akita.jp)で送ってください。Eメールの場合は件名に「お便り広場」と記入してください。



平成28年度重点目標
野菜を使った簡単朝食メニュー♪

～独特の苦味と香りが意外なおいしさ～

春菊のクールサラダ



今月のレシピ当番は南外支部の皆さんです

【材料(4人分)】 栄養価/1人あたり120キロカロリー 食塩1.0g

春菊	150g	【調味料】	
小粒納豆	1パック	マヨネーズ	大さじ1
ツナ油漬缶	小1缶	しょうゆ	大さじ1・½
キュウリ	½本	酢	小さじ1
かつお節	1袋	オリーブオイル	小さじ1
パプリカ(赤・黄色)	適量		

【作り方】

- ①春菊は洗って水けを切り、葉の部分のみ取り、茎は3センチほど切り落として斜め切り、キュウリは細長いせん切りにする。
- ②納豆はパックから取り出し、軽くかき混ぜておく。
- ③ボールに油を切ったツナとマヨネーズ、しょうゆ、酢、春菊の茎を入れて軽くかき混ぜる。
- ④③に納豆、春菊、キュウリを入れて、軽く混ぜ合わせ、オリーブオイルを加えてさらに混ぜ合わせる。
- ⑤器に④を盛り付け、周りにパプリカを添え、かつお節を上にかける。

ひとことアドバイス

- みょうがのせん切りを加えて和えても合います。
- 冷奴やスパゲッティにかけて食べてもおいしいです。



市内のがんばるものづくり企業を紹介します

だいせんものづくり図鑑

no.25

大曲地域戸蔭地区で二次電池の性能試験を行っているのが、由利電子部品株式会社(真坂護代表取締役)です。

1991(平成3)年に創業。電子精密部品を製造する由利工業株式会社(本社・由利本荘市)の大曲工場として、主に積層セラミックチップコンデンサの製造の受託生産に取り組んでいました。

2012(平成24)年、取引先企業の業務形態の大幅な見直しの影響を受け、電子精密部品製造で培った「高品質・低価格・納期厳守」を生かし、2015(平成27)年8月、二次電池の評価と特性試験を請け負う「秋田電池試験センター」として稼働を始めまし



製品開発を「試験」で支える

由利電子部品株式会社[大曲]

業務内容/二次電池の性能試験

従業員数/10人

@今回の案内人は同社秋田電池試験センター副センター長の加澤康広さんです

た。電池の受託試験事業への参入は北東北初の試みです。

二次電池は、繰り返し充電して使え、リチウムイオン電池もその一種です。同社では、自動車や住宅用太陽光蓄電池のメーカーから依頼を受け、主に試作品の電池を試験。さまざまな条件下で容量や入出力時の特性、充放電効率を正確に測定・評価し、データを提供します。製品開発に欠かせない性能試験を担うことでメーカーを支えています。

今年1月には電池の受託試験事業で必要とされる国際標準規格「ISO/IEC17025」の認証を取得。顧客ニーズに応じた事業展開を進めたい考えです。

今 回は小児科の立場から、病気の各論ではなく、人間の健康な発育にかかわる根源的なテーマについてお話しします。

人 間の心身の健康に最も大切なものは「自尊感情（自己肯定感）」です。そしてその形成は母親の胎内から既に始まっていきます。母親が周囲の愛情と安心に包まれた妊娠生活を過ごすことによって、胎児の心と体はすくすく育ち、そして生まれた後も、人間の五感とともに、母親あるいは養育者との心と心の響き合い（間主観性）を通じて、さらにのびやかに育つのです。この時に重要な役割を果たすのが、「甘え」です。

乳 幼児は甘えを満たされることによる信頼関係を作り、これが他者に対する基本的信頼感の基礎になります。そしてさらに成長の過程で、自分の行動が他人を喜ばすことができるということに気付くことによって、「自己有用感」を身に付けて、それが健全な自尊感情へとつながっていくのです。養育者が子どもの甘えを100%満たすことにはできませんが、できるだけその場で答えてあげることによって、他人に対する信頼感をより確かに築くことができます。

この即時性、つまり、すぐに答え



大曲仙北医師会

生和堂医院

伊藤 晴通 院長

刈和野清光院後 15-2

☎ 0187-75-0318

てあげることが重要です。子どもに何かを促した時に、『ちよつと待つて』とか、『あとで』と返されたことはありませんか。もしそうなら、日頃子どもたちに必要以上に『待つて』と言っていないかを振り返ってみる必要があります。また、皮肉やあまのじゃくも甘えが満たされないことによって発生すると考えられています。

自 尊感情には二つの要素があります。一つは人間の心の

根幹を成す基本的自尊感情で、もう一つは、その上に積み重ねていく社会的自尊感情です。冒頭から述べている、人間の心と体の根源を成す部分が基本的自尊感情で、その上に、成長と共に社会で認められることによって育っていく社

会的自尊感情があります。心の響きあい（間主観性）は、自尊感情の形成に非常に重要です。なぜなら、これまで困難と言われてきた基本的自尊感情の形成に、日々の共有体験がとても重要とわかってきているからです。その意味でも、乳幼児期のスキンシップや、その後の一家の団らんはとても大切です。

親 子で、学校生活の話題、友人

関係の話題は共有されていますか。人は他者との関わりの中で生き、成長します。他者との心の響き合いが多い人ほど、幸福度も高いようです。人間の甘えという心の根源にある一面と、それを大切にしたい心と心の響き合い。皆さん、子育てをもう一度見直してみませんか。

家庭でのスキンシップを大切に—
甘えと間主観性に根ざした子育て

A Talk about “Child rearing based upon
“Amae” and Intersubjectivity”



Medical Chart no. 111

※「大曲仙北医師会」は、大仙市、仙北市、美郷町の医師で組織しています

健康の達人

Letters from Omagari-Semboku Medical Association
Masters of Intersubjectivity

大曲仙北医師会からの便り

大曲仙北医師会ホームページ
パソコンから <http://www.omagari-med.or.jp>
携帯電話から <http://www.omagari-med.or.jp/>

健康通信

問い合わせは各健康増進センターへ

健康増進センター

中央(健康福祉会館内/大曲)

西部(西仙北庁舎内/神岡・西仙北・協和・南外)

東部(中仙庁舎内/中仙・仙北・太田)

☎ 0187-62-9301

☎ 0187-62-1015

☎ 0187-75-0476

☎ 0187-56-7211



年に1回の健康チェック 9月の健診(検診)日程

健診(検診)を申し込んだ方には、日程などの詳細を通知しています。指定日に受診できない方、または住んでいる地域以外の会場で受診したい方は健診(検診)期間中であればどの会場でも受診できます。

◆期日・会場／

期日	会場	時間
9月9日(金)	角間川公民館	①午後1時15分 ～2時 ②午後3時15分 ～4時 ※9月15日・26日は ①午後1時15分～ 2時②午後2時30 分～3時30分
12日(月)	健康福祉会館	
13日(火)	四ツ屋公民館	
14日(水)		
15日(木)	藤木公民館	
16日(金)	健康福祉会館	
20日(火)		
21日(水)		
23日(金)	内小友公民館	
26日(月)	大川西根公民館	
27日(火)	大曲交流センター	
28日(水)		
29日(木)		
30日(金)		

◆健診(検診)の内容／特定健診、後期高齢者健診、肺がん等検診、大腸がん検診、前立腺がん検診、肝炎ウイルス検診、30・35歳血液健診



あなたの募金が結核のない社会をつくります 複十字シール募金のお願い

9月と10月の2カ月間、大仙市結核予防婦人会会員が皆さんの家庭を訪問し、複十字シール募金活動を行います。集めた募金は、発展途上国の結核対策や結核撲滅のための研究費に活用されます。

結核は、世界中で年間900万人が発病し、150万人が亡くなっている感染症です。日本でも年間2万人が発病しています。

結核撲滅のために、皆様のご理解とご協力をお願いします。

◆平成27年度の大仙市の

募金総額/1,806,603円



複十字シール運動
キャラクター
「シールぼうや」



年に1回の健康チェック 9月の日曜健診(検診)日程

受診を希望する方は、事前にお住まいの地域の健康増進センター各分室(中央・西部・東部)にご連絡ください。

◆日時/9月11日(日)午前6時～8時

◆会場/健康福祉会館

◆日曜健診(検診)の対象と内容／

対象	健(検)診内容
40歳～74歳(昭和17年4月2日～52年4月1日) ※胃がん検診は35歳以上	特定健診、肺がん等検診、大腸がん検診、前立腺がん検診(50歳以上)、肝炎ウイルス検診、胃がん検診(35歳以上)
30歳(昭和61年4月2日～62年4月1日)、35歳(昭和56年4月2日～57年4月1日)	30・35歳血液健診

※胃がん検診は申し込みを終了しています。

- 利用するには？
- ①電話で予約
名前・年齢・連絡先・相談内容・居住地域・相談希望日などをお知らせください。
※医療機関に通院中の方は主治医と相談し、承諾を受けてからお越しください。
 - ②初回相談
約1時間30分ほどの初回相談の後、相談を継続するか決定します。
 - ③相談後、継続の面接
頻度や相談終了の時期を相談しながら50分の面接をします。
- 【問い合わせ・申し込み】
「ほっとスペース」
☎ 0187(62)9304

こころの健康相談・
カウンセリング
「ほっとスペース」



- ◆「ほっとスペース」では、臨床心理士などの資格を持つカウンセラーがこころの健康について相談やカウンセリングを行っています。秘密は厳守しますので安心してご相談ください。
- ◆対象/市に住民登録している方を除く
- ◆時間/午前9時～午後5時(土・日、祝日を除く)
- ◆会場/健康福祉会館内「ほっとスペース」
- ◆相談料/無料



BOOKS

南外図書館のおすすめ

夢はどうしてかなわないの？

大野正人／作 中川学／絵 出口保行／監修
(汐文社)



夢は「叶うと信じて一生懸命頑張れば、絶対に叶えられる」と努力をしている人も多いと思います。しかし、この本には「夢は叶うことはない」とはっきり明記されています。その理由は、ぜひこの本を読んでみてください。心の壁に直面したときに、どうしたら心を強くできるのか。どうしたら明るい未来に向かえるのか。そんなヒントが散りばめられています。絵本とはいっても内容がとても深く、大人が読んでいろいろな気付きが得られる作品です。
(南外図書館所蔵)

新着図書

9月

ここで紹介する以外にもたくさんの本が入っています。希望する本がない場合は、図書館職員に声を掛けてください。市内の各図書館のほか、県立図書館からも取り寄せます。

幼児・児童向け図書

- もりもりさまの森 田島征三作 さとうなおゆき絵
- 四人のおぼあちゃん ダイアナ・ウイン・ジョーンズ
- ペーパーボーイ／ヴィンス・ヴォーター
- いもさいばん たじまゆきひこ絵 きむらゆういち文
- しげちゃんとりつさん グールドン・メプス
- 世界一の三人きょうだい 斉藤洋作 森泉岳士絵
- アリスのうさぎピリオ・ファンタジア 森泉岳士絵

小説・一般向け図書

- 落陽／朝井まかて
- 大沼ワルツ／谷村志穂
- 中島ハルコはまだ懲りてない！／林真理子
- スタフ／道尾秀介
- おおあたり／畠中恵
- 美しい距離／山崎ナオコ
- アンマーとぼくら／有川浩
- 海の家族／石原慎太郎
- 津軽双花／葉室麟
- コンビニ人間／村田沙耶香

各図書館イベント／

【おはなし会】

- 仙北 9月10日(土) 午前10時30分～
- 協和 9月17日(土) 午前10時～
- 神岡 9月17日(土) 午前11時～
- 西仙北 9月24日(土) 午前10時～11時

【絵本となかよし会】

中仙(うさちゃんひろば) 9月9日(金) 午前10時30分～11時30分

【どんぐり文庫 おはなし会】

太田(敬愛館) 9月18日(日) 午前9時30分～11時

【出張図書館(清水分館まつり)】

中仙(中仙公民館清水分館) 9月18日(日) 午前10時～午後1時

大曲図書館企画展「手づくり布ぞうり展」

期間／9月10日(土)から29日(木)まで

時間／午前9時～午後7時

■各図書館休館日／【9月】▼1日＝神岡、南外、太田▼4日＝南外▼5日＝中仙、仙北▼5～9日＝大曲(資料整理期間)▼7日＝西仙北▼26日＝協和【10月】▼3日＝大曲、神岡、中仙、南外、仙北、太田▼5日＝西仙北▼18～20日＝太田(資料整理期間)▼31日＝協和

各図書館問い合わせ

大曲図書館 ☎ 0187-62-1012	協和図書館 ☎ 018-892-3830
神岡図書館 ☎ 0187-72-2501	南外図書館 ☎ 0187-74-2130
西仙北図書館 ☎ 0187-75-0099	仙北図書館 ☎ 0187-69-3334
中仙図書館 ☎ 0187-56-7200	太田図書館 (太田スポーツクラブ) ☎ 0187-86-9460

9月の市長日程

※日程は変更になる場合があります。

- 1日・木 定例記者会見
- 7日・水 第3回市議会定例会(第2日)
- 8日・木 第3回市議会定例会(第3日)
- 9日・金 大曲厚生医療センター運営委員会
- 10日・土 第24回秋田太田南部忠平杯グラウンド・ゴルフ大会
さきがけいのちの巡回県民講座
- 12日・月 花火創造企業「煙火製造工場」起工式
- 16日・金 第3回市議会定例会(第4日)
- 17日・土 全県500歳野球大会
- 20日・火 南外地域市長面会日
- 26日・月 東日本大震災被災地視察(～27日)
- 30日・金 仙北地域市長面会日

市長交際費

(7月1日～31日)

摘要	件数	金額
慶祝	14	326,560円
協賛	1	4,800円
弔慰	7	96,200円
合計	22	427,560円

※慶祝＝市長等が出席する行事の会費やお祝いなど
 ※協賛＝各種事業協賛金や各種大会市長賞および副賞など
 ※弔慰＝行政委員会の委員等、市政に深く関わりのある方や旧市町村の功労(績)者に対する香典など



ドンパン祭りであいさつをする栗林市長



大仙市地域高齢者健康教室を開催

高齢世代は動物性食品を積極的に

大 仙市地域高齢者健康教室が8月3日健康福祉会館で行われ、95人が参加しました。教室では、人間総合科学大学教授の熊谷修さんが「シニア世代からの栄養改善」と題して講演しました。老化とは、

体内のタンパク質、水、脂質、コレステロールが減少し栄養失調になっていく現象であると説明した上で、老化を遅らせようと考える行動すると病気が要介護状態になりやすい。体の中の筋肉と骨の量の占める割合を維持することが大切」と参加者にアドバイスしました。

「新型栄養失調」
食事をきちんと食べていても栄養失調になってしまう高齢者が増えています。原因は、タンパク質の不足で「新型栄養失調」と言われています。医療機関が対象とする低栄養状態でもなくこれまで問題ないと思われてきた栄養状態でも老化のスピードが速まることから熊谷先生の20数年の研究から

明らかになっていきます。70歳以上の4人に1人、75歳以上の2人に1人は新型栄養失調に当てはまると言われています。要介護状態や病気を予防するためにも栄養状態を改善し老化を遅らせることが重要です。

意識をチェンジ

あれこれ食べる食生活に
60歳以上の高齢世代では、肉や脂を控える粗食になりがちですが、肉を中心とした動物性食品を積極的に取るよう意識を切り替えましょう。女性には閉経期、男性は60〜65歳ころから「これを食べてはだめ」ではなく「あれも食べよう、これも食べよう」という前向きなイメージで食事を見直してみてください。

1日に必要な動物性タンパク質は、肉70g、魚80g、卵1個、牛乳1杯程、ご飯150g（茶碗3杯程度）を取った上で、これらの動物性タンパク質を含む食品を食べよう。



介護予防に関する問い合わせは各高齢者あんしん相談室（地域包括支援センター）へ

中央（大曲庁舎／大曲・四ツ屋・花館地区）
☎ 0187-63-1111 内線 169

西部（西仙北庁舎／神岡・西仙北・南外）
☎ 0187-87-3970

南部（社会福祉協議会本所／大曲・内小友・西根・藤木・角間川地区）
☎ 0187-88-8030

東部（中仙庁舎／中仙・仙北・太田）
☎ 0187-56-7125

協和（社会福祉協議会協和支所／協和）
☎ 018-892-3838

介護保険事務所
からのお知らせ

認定結果により受けられる介護保険サービスが異なります
要介護認定から介護保険サービスの利用まで

要介護認定を申請して認定を受ける

要介護1～5と認定を受けた方

- 「施設サービス」を利用したい場合
介護老人福祉施設、介護老人保健施設など、入所を希望する施設に直接申し込みます。
※介護老人福祉施設は原則として「要介護3～5」と認定された方のみ利用できます。
- 「在宅サービス」を利用したい場合
 - ①「居宅介護支援事業所」に連絡して、ケアプラン（居宅サービス計画）作成を依頼します。
※「居宅介護支援事業所」は介護保険事務所ホームページ（<http://www.oskaigonet.or.jp/>）をご覧ください、または介護保険事務所・各高齢者あんしん相談室（地域包括支援センター）・各支所市民サービス課に用意している一覧表でご確認ください。
 - ②担当のケアマネジャーにケアプランを作成してもらいます。適切な介護サービスを利用できるように相談しましょう。
※サービス提供事業所との連絡・調整はケアマネジャーが行います。
 - ③ケアプランにそって「在宅サービス」を利用します。

要支援1・2と認定を受けた方

- ①初めてサービスを利用する方は「地域包括支援センター」に連絡して、介護予防ケアプラン（介護予防サービス計画）作成を依頼します。
※これまで介護サービスを利用していた方で「要支援1・2」と認定された方は担当のケアマネジャーに相談してください。
- ②担当のケアマネジャーに介護予防ケアプランを作成してもらいます。適切な介護予防サービスを利用できるように相談しましょう。
※サービスを提供する事業所との連絡・調整はケアマネジャーが行います。
- ③介護予防ケアプランにそって「在宅サービス」を利用します。

※施設サービスは「要介護1～5」と認定された方のみ利用することができます。

【問い合わせ】

介護保険事務所 認定審査班 ☎0187-86-3912
各高齢者あんしん相談室（各地域包括支援センター）
各支所市民サービス課

事前に申し込みが必要です 高齢者の土地・家屋・相続相談

- ◆対象／おおむね65歳以上の方
- ◆日時／9月23日(金)
午前10時～午後3時
- ◆会場／
大仙市社会福祉協議会本所
- ◆定員／8人
※相談は1人30分程度。同じ相談内容は1人1回まで
- ◆相談員／相馬完さん(司法書士)
- 【問い合わせ・申し込み】
大仙市社会福祉協議会本所
☎0187-63-0277

若者の語り場 ～ Vinculo de la vida ～

- 悩みや将来の不安などを何でも本音で気軽に話し合える「若者の語り場」に参加してみませんか。事前の申し込みは必要ありません。参加を希望する方は直接会場にお越しください。
- ◆対象／39歳以下の方
 - ◆日時／9月17日(土)
午後3時～5時
 - ◆会場／大曲交流センター
 - ◆参加費／無料
 - 【問い合わせ】
NPO目的のある旅代表 草野さん
☎080-3088-7506

ご理解とご協力をお願いします 社会生活基本調査

- 総務省と秋田県では、10月20日現在で社会生活基本調査を実施します。この調査では、私たちが1日のうちどのくらいの時間を仕事、家事、地域での活動などに使っているかや過去1年間の自由時間にどのような活動をしたかを調べ、調査結果は暮らしや社会のための基礎資料として活用されます。10月上旬から中旬にかけて調査員が調査対象の世帯に訪問します。調査へのご協力をお願いします。
- 【問い合わせ】
県調査統計課 ☎018-860-1258

ほろっとキッズ 秋の野山で遊ぼう

- 保呂羽山登山や自然の中での遊びを楽しみませんか。
- ◆対象／小学生(保護者の参加も可)
 - ◆日時／10月2日(日)
午前9時～午後3時
 - ◆会場／保呂羽山少年自然の家
(横手市大森町)
 - ◆定員／20人
 - ◆参加費／500円(いものこ汁代・保険料等)※大人600円
 - ◆申し込み方法／①名前②学年と年齢③郵便番号・住所④電話番号を記入しファクスまたはメールで申し込み
 - ◆申込期限／9月20日(火)
 - 【問い合わせ・申し込み】
ほろっとキッズ事務局
(沼館保育園内) 高橋大成さん
☎0182-22-4511 FAX0182-22-4517
✉numadate-ns@kosodate-web.com

お知らせ Information

あきた結婚支援センター 結婚なんでも相談窓口

- あきた結婚支援センターでは、「結婚なんでも相談窓口」を開設しました。結婚に関する疑問や悩みにコーディネーターが無料でアドバイスします。気軽にお電話ください。
- ◆対象／本人や家族、友人など
 - 中央センター
時間／午前9時～午後6時
場所／秋田市中通6-7-36
(フォーラムアキタ1階)
 - 南センター
時間／【月～金曜日】午後1時～午後9時【土・日】午前9時～午後6時
場所／横手市四日町6-8
 - 【問い合わせ】
あきた結婚支援センター
☎0800-800-0413
✉akitadeai@sukoyaka-akita.com

Events イベント

世界の文化に触れよう あきた国際フェスティバル2016

- ◆日時／10月1日(土) 午前10時～午後4時
- ◆会場／イオンモール秋田・セントラルコート
- ◆内容／県内在住の外国人による文化紹介や国際交流団体による活動紹介、さまざまな国の踊りのステージ、世界のお菓子がもらえるクイズラリーなど
- 【問い合わせ】
秋田県国際交流協会
☎018-893-5499

科学者の卵集まれ あきたサイエンスクラブ科学講座

- 映像作成ソフトを使って、動くゲームを作ってみませんか。
- ◆対象／中学生、高校生
 - ◆日時／10月29日(土)、11月5日(土)の午後1時～5時
 - ◆会場／秋田公立美術大学
(秋田市新屋大川町12-3)
 - ◆定員／各10人
 - ◆申込期限／9月23日(金)
 - ◆参加費／無料
 - 【問い合わせ・申し込み】
秋田県学術振興課
☎018-860-1223 FAX018-860-1225

さきがけいのちの巡回県民講座 いのちを支える地域の力

- ◆日時／9月10日(土)
午後1時30分～4時
- ◆会場／大曲交流センター
- ◆参加費／無料
- ◆内容／日本赤十字秋田看護大学看護学部助教の播摩優子さん、メンタルクリニック秋田駅前院長の稲村茂さんの講演など
- 【問い合わせ】
いのちを守り、いのちを支える係(秋田魁新報社営業局内)
☎018-888-1862

若年従業員の職場定着のための 管理職セミナー

- ◆日時／9月14日(水) 午前10時～午後4時
- ◆会場／横手プラザホテル
(横手市駅前町7-7)
- ◆定員／30人
- ◆受講料／無料
- 【問い合わせ・申し込み】
フレッシュワークAKITA
☎018-826-1735



体と心を癒しましょう ヨガ シャイニングムーン

- ◆日時／9月24日(土) 午後5時30分～6時30分
- ◆会場／はびねす大仙
- ◆受講料／1回1,000円
(初回体験500円)
- ◆持参するもの／ヨガマット、またはバスタオル、飲み物
※動きやすい服装でお越しください。
- 【問い合わせ・申し込み】
吉岡さん ☎090-5405-7731



その気持ちで国を守るチカラになる 自衛官募集

- 防衛医科大学校看護学科学生
試験期日／10月15日(土)
- 防衛医科大学校医科学生
試験期日／10月29日(土)・30日(日)
- 防衛大学校学生一般(前期)
試験期日／11月5日(土)・6日(日)
- ◆受験資格／平成9年4月2日から平成11年4月1日までに生まれた方で高校を卒業した方もしくは平成29年3月に卒業見込みの方
- ◆受験申込期間／9月5日(月)から30日(金)まで
- 【問い合わせ・申し込み】
自衛隊秋田地方協力本部
大仙地域事務所 ☎0187-63-1313

正しい知識と理解のために 精神保健福祉入門講座

- ◆期日／10月7日(金)・21日(金)、11月4日(金)・18日(金) (全4回)
- ◆時間／午後2時～4時
- ◆会場／協和病院
- ◆定員／20人
- ◆受講料／無料
- ◆申込期間／9月1日(木)から15日(木)まで
- 【問い合わせ・申し込み】
医療法人慧真会事務局 (協和病院内) 藤田さん ☎018-892-2881

災害ボランティア 活動実践研修会

- 災害時に必要とされるボランティア活動はどういったものなのか、また地域の一員として何ができるかを考えませんか。
- ◆日時／10月4日(火) 午前10時30分～午後3時30分
 - ◆会場／大曲交流センター
 - ◆定員／30人程度
 - ◆参加費／無料
(希望する方は昼食代500円)
 - ◆申込期限／9月21日(水)
 - ◆講師／李仁鉄さん(NPO法人にいがた災害ボランティアネットワーク事務局長)
 - 【問い合わせ・申し込み】
大仙市社会福祉協議会本所
☎0187-63-0277

大曲技術専門校の スキルアップセミナー

- ワードチラシ作成講習
期日／10月5日(水)・6日(木)
- エクセル関数ビジネス活用
期日／10月24日(月)・25日(火)
- ◆対象／会社等に勤務している方
- ◆時間／午前9時～午後4時
- ◆会場／大曲技術専門校
- ◆定員／各10人
- ◆受講料／無料(別途テキスト代)
- 【問い合わせ・申し込み】
大曲技術専門校民間訓練支援室
☎0187-62-6321

仙北平野土地改良区管内 用水路の長期断水

- 施設の点検・整備のため、次のとおり用水路が長期断水になります。
- ◆断水期間・施設／
【9月9日(金)から11月8日(火)まで】
○1～5号幹線用水路と幹線から分水される支線用水路・直分
 - 【9月9日(金)から11月8日(火)までの期間中各1週間程度】
○河川から取水している各施設
 - 【問い合わせ】
秋田県仙北平野土地改良区
管理課 ☎0187-62-0180

一人で抱えず相談してください こころの電話相談

- 人とのつきあい方や家族との関係などの不安・悩みに専門の相談員が応じます。一人で悩まずお電話ください。
- ◆時間／【月～金曜日】午前9時～午後4時【土・日、祝日】午前10時～午後4時
 - ※12月29日から1月3日までを除く
 - 【問い合わせ】
こころの電話相談
☎018-831-3939



高齢者の技術習得・就業支援 ふすま・障子張り替え講習

- ◆対象／市内在住で60歳以上の方
- ◆日時／9月29日(木)
午前9時～正午ごろ
- ◆会場／鞠子苑(大曲須和町2-5-43)
- ◆定員／15人
- ◆受講料／無料
- ◆申込期限／9月21日(水)
- ◆持参するもの／ふすまと障子各2枚
※用意できない場合は相談してください。
- 【問い合わせ・申し込み】
大仙市シルバー人材センター
☎0187-62-4343

EVENTS INFO.

9月の子育てイベント情報



未就園の子どもを対象にしたイベントをお知らせします。

開催場所 (問い合わせ・申し込み)	日時	事業名	申込期限
サンクエスト大曲 (大曲子育て 支援センター) ☎0187-62-5733	8日(木) 10:00~	みんなで遊ぼう お誕生会	6日 (火)
農業科学館 (大曲子育て 支援センター) ☎0187-62-5733	15日(木) 10:00~	秋の遠足を楽しもう	13日 (火)
すすくだけっこ園 ☎0187-72-2244	7日(水) 9:30~	お外で遊ぼう!	6日 (火)
みつば保育園 ☎0187-87-7130	21日(水) 10:00~	園庭で遊ぼう	なし
なかせんワイワイ らんど ☎0187-56-4139	15日(木) 9:30~	交通安全教室 ~楽しく交通ルール を覚えよう~	なし
協和保育園 ☎018-892-3426	8日(木) 10:00~	元気いっぱい、 よーい、どん!	7日 (水)
つきの木こども園 ☎0187-73-1088	15日(木) 9:30~	元気いっぱい! お外であそぼう!	14日 (水)
せんぼくちびっこ らんどわかば園 ☎0187-63-1143	21日(水) 9:30~	見て聞いて 自然と触れ合おう!	なし
おおたわんぱくランド すすく園 ☎0187-86-9110	21日(水) 10:00~	園庭でお友達と遊ぼ う! Part II	なし

ひろば名	日時	事業名
まるこのひろば ※水曜日を除く週6日開設 ☎0187-63-2344 (大花都市再生住宅)	1日(木) 9:30~	月例身体測定 (午前中のみ)
	13日(火) 10:30~	ママのおしゃべりサロン ※要申し込み
	16日(金) 10:30~	絵本となかよし
	20日(火) 10:30~	一緒に遊ぼう (3B体操)
	30日(金) 10:30~	誕生会 (9月生まれの子)
つなっこひろば ※木・金・土曜日開設 ☎080-8214-8159 (西仙北中央公民館)	10日(土) 10:30~	お話会No.1 (読み聞かせグループ)
	随時	お誕生日おめでとう!!
うさちゃんひろば ※水・木・金・土曜日開設 ☎080-2845-9267 (中仙市民会館(ドンパル))	9日(金) 10:30~	絵本となかよし会
	21日(水) 10:30~	手形で大きな木をつくろう

EVENTS INFO.

9月の高齢者生活相談所イベント情報

日時	事業名
9日(金) 13:30~15:00	健康・介護相談~お気軽にどうぞ
17日(土) 13:30~15:00	「昔の話をしよう」 懐かしの映像を見て、うたを歌おう!

懐かしいあの頃がよみがえる「昭和のくらし展(夏編)」を開催しています。くつろぎながら思い出を語り、楽しみませんか。

【問い合わせ】

まるこのひろば(大花都市再生住宅1階) ☎ 0187-63-2544

大仙市の行事予定

9月1日木 ~ 16日金

9/1 木

2 金

3 土

認知症サポーター養成講座※申込者のみ
■午前10時~11時30分 ■中仙市民会館(ドンパル)

大仙美郷クリーンセンター休日開場日

■午前8時30分~午後4時30分
■【家庭系ごみ】66円/10kg 【事業系ごみ】133円/10kg

4 日

まほろば唐松定期能公演

■午後1時開演 ■まほろば唐松能楽殿

秋田ノーザンハビネッツフレッシュゲーム

■午後2時試合開始 ■大曲体育館

☎ 協和町歯科診療所(協和) ☎ 018-892-3166

5 月

6 火

伝統野菜を使った料理を作ろう※申込者のみ

■午前10時~午後2時 ■はびねす大仙

ひだまりコーヒースロン ■午後1時~3時 ■大川西根公民館(100円)

平成28年第3回大仙市議会定例会(第2日)

■午前10時~ ■議場(大曲庁舎)

7 水

身体障がい者(聴覚)巡回相談

■午前9時30分~11時30分 ■大曲中央公民館

第3回文化財を巡る旅※申込者のみ

■午前8時30分

■大曲市民会館駐車場(大曲交流センター南側)集合

平成28年第3回大仙市議会定例会(第3日)

■午前10時~ ■議場(大曲庁舎)

8 木

大仙市障がい者グラウンドゴルフ大会※申込者のみ

■午前9時30分~午後2時

■中川原運動公園グラウンド・ゴルフ場

9 金

10 土

女子力×男子力アップ講座第1弾パークヨガ※要申込

■午前8時30分~ ■弘田柵跡(長森展望休憩所付近) ▶ P.10

結婚応援無料相談会※要申込

■午後2時~、午後2時45分~、午後3時30分~

■市民活動交流拠点センター(Anbee大曲2階) ▶ P.11

☎ まつだ歯科医院(仙北市) ☎ 0187-43-3600

12 月

13 火

第37回神岡南外花火大会

■午後6時30分~ ■中川原コミュニティ公園 ▶ P.29

認知症の方と家族の集い「たんぼほの会」

■午前10時~11時30分 ■大曲交流センター ▶ P.11

14 水

ひだまり出前コーヒースロン

■午後1時~3時

■市民活動交流拠点センター(Anbee大曲2階)(100円)

15 木

16 金

平成28年第3回大仙市議会定例会(第4日)

■午前10時~ ■議場(大曲庁舎)

○休日救急医療(日曜日・祝日・年末年始)

■医療機関/大曲厚生医療センター ☎ 0187-63-2119

■時間/午前9時~午後3時

○小児救急診療(日曜日)

■医療機関/大曲厚生医療センター ☎ 0187-63-2119

■時間/午前9時~午後3時

○休日歯科当番医

■医療機関/行事予定表の歯を確認してください

■時間/午前9時~正午

※休日歯科当番医は変更になる場合があります。受診前に電話で確認してください。

※休日救急医療の電話番号が9月から変更になっています。かけ間違いのないようご注意ください。

広告ページ



第38回 全県500歳 野球大会

親父たちの甲子園 プレイボール!



- ◆期間／9月17日(土)から21日(水)まで
- ◆時間／午前8時30分～(大会4日目以降は、午前9時～)
※開会式は9月17日(土)午前7時から神岡野球場で開催
- ◆試合会場・日程／神岡野球場ほか市内17会場
- 【1～3回戦】9月17日(土)・18日(日)
神岡野球場、中川原第1球場、中川原第2球場、平和中学校、太田球場、角間川親水公園野球場、仙北球場、花館小学校、大曲球場、協和野球場、南外運動場、南外中学校、南外山村運動広場、西仙北中学校、西仙北緑地運動広場、雄物川河川花館野球場、鶯野野球場、八乙女球場
- 【4回戦～準々決勝】9月19日(月)・20日(火)
神岡野球場、大曲球場、協和野球場、八乙女球場
- 【準決勝・決勝】9月21日(水)
神岡野球場

【問い合わせ】スポーツ振興課 ☎0187-63-1111 内線343

人口と世帯数		人口増減内訳	
人口	84,638人 (-64)	出生	39人
男	39,657人 (-29)	死亡	113人
女	44,981人 (-35)	転入	130人
世帯数	31,335世帯 (+10)	転出	120人

※()内は前月比 7/31現在

●編集発行 秋田県大仙市企画部総合政策課 ☎0187-63-1111(代表)
〒014-8601 秋田県大仙市大曲花園町1番1号

●発行日 毎月2回(1日・16日)

●印刷 株式会社 三森印刷

担当者コラム 今日も“だいせん日和”

誰かのために頑張っているわけではないのかもしれないけれど、誰かを勇気づけ、誰かを励ましている。4年に一度の特別な舞台、オリンピックにはスポーツの魅力が凝縮されています▼大仙市から日本代表として今夏のリオ五輪に出場したマラソン男子の佐々木悟さんと、カナリー・カナディアンペアの佐々木将汰さん・翼さん兄弟。競技中に見せた3人の表情にはこの大一番に賭ける強い決意がにじんで、観ているだけで胸が熱くなりました▼多くのアスリートは幼少期の早い段階から競技に親しんでいて、さまざまなエピソードを聞かれました。「嗚呼、自分とは住む世界が違う…」などと感じてしまいましたが、3人は学生時代、わたしたちと同じ地域でわたしたちと同じように生まれ育ち、わたしたちにとっても比較的身近な練習環境の中で日本代表の座を獲得するための地方を養いました▼同郷のわたしたちにとって、3人はまさに等身大のヒーロー。日本が史上最多となる41のメダルを獲得した今回の五輪では感動的な場面がたくさんありましたが、とりわけ3人の登場シーンは勝敗を超えて心に迫るものがありました。自分が日本人であること、大仙市に住む人間であることを強く考えさせられた、印象に残るオリンピックでした(き)